

父親と家庭教育に関する調査

～コミュニケーションと子どもの成長との関わりを中心に～

指導： 尾木直樹（法政大学キャリアデザイン学部教授）

調査： 学研教育総合研究所・家庭教育研究ワーキンググループ

（梅崎洋・川田夏子・小泉隆義・古川隆・山本尚幸・吉村理子）

アンケート実施： (株)キャリアプランニング

目次

序	3
調査方法の概要	4
アンケートにおける質問項目	5
集計結果	8
テーマ分析・1 親の生活が充実していれば、子どもも良く育つのか？	22
テーマ分析・2 子どものタイプと親子のふれ合いの密度は関係するか？	29
テーマ分析・3 (項目別)親子のふれ合い方と、子どものタイプとの関係は？	31
テーマ分析・4 家族でのイベントは、勉強の成績に影響するか？	40
テーマ分析・5 子どもと何を話す？ 何を教えている？	43
まとめと今後の課題	52

序

周囲もうらやむ仲良し家族。ところが、兄が20歳の妹を殺害。目にするのもはばかりられるほどひどい遺体の扱いに、世間には衝撃が走った。

また、裕福で恵まれた家庭にありながらも、医学部をめざした父親の厳しい学習指導に耐えかねて自宅に放火。母と幼い妹と弟の命を奪った高校一年生。にわかには信じがたい、これらの身内殺人事件が、今や連続している。

一方、教室では、小・中・高を問わずいじめが蔓延。被害者の自死も連鎖している。

ところが、教師たちは、社会的教師批判と「困った親」たちに振り回され、自信喪失に陥っている。これらの現象の奥には、各家庭教育における機能不全現象が拡大しているのではないか。

本調査では、「叱れないお父さん」と言われて久しい今日、あらためて父親と子どもとの関係性にスポットを当ててみた。父親と子どもとのコミュニケーションの実態や質、それがどのように子どもの学力形成や精神的発達に影響を及ぼしているのか。また、二人の関係性をいかに象徴しているのか、丁寧な分析を試みたものである。

法政大学キャリアデザイン学部 教授
尾木直樹

■調査の概要■

● 調査目的

父親と子どもとのコミュニケーションの緊密度を調査し、そのコミュニケーションの度合いと子どもの精神的、学力的発達との相関関係を分析することを目的とする。

● 調査方法

インターネット調査による回答を集計。

● 調査対象および調査標本

全国の3歳以上12歳以下の第一子のいる父親で、年齢は30～39歳が68%を占める。有効回収サンプル数3245。

● 調査年月日

調査日時：2006年6月12日～6月19日

● 調査項目

次頁以降に具体的な質問項目を列記。

● テーマ別調査項目（クロス集計による）

- (1)「父親の生活に対する満足度と子どもへの満足度の相関関係」
- (2)「父親と子どものふれあい度と子どものタイプとの相関関係」
- (3)「父親と子どもの具体的なふれあいと子どものタイプとの相関関係」
- (4)「家庭での行事と子どもの学力との相関関係」
- (5)「父親との会話の内容と子どものタイプ」「父親が子どもに関して知っていることと子どものタイプとの相関関係」

■アンケートにおける質問項目■

Q 1 回答者の属性

年齢／職業／子どもの人数／子どもの年齢（第2子以降含む、複数回答）

Q 2 「あなた（回答者である父親）は、今の生活に満足していますか」

- ・自分の仕事の内容 ・家計の収入 ・子どもの現状 ・配偶者との人間関係
- ・子どもとの人間関係 ・自分の健康状態 ・生活の時間的なゆとり

※「とても満足している」「まあまあ満足している」「あまり満足していない」「全然満足していない」の4段階から選択。

Q 3 「あなたは現在のお子さんのようすにどのくらい満足されていますか」

早寝早起き／家の中の決められた約束事を守る／家の手伝いを積極的にする／時間を守る／他人に対して思いやりがある／うそをつかない／行動や物事を処理する要領や段取りが良い／人の言うことを素直に聞く／家でよく勉強する／学校の成績が良い／友だちが多い／よく考えて行動する／いやなことがあってもくじけず、ねばり強い／親に何でも話をする／よく本を読む／人前ではきはきと話す／運動能力にすぐれている／芸術（音楽や美術）的な能力にすぐれている

※「とても満足している」「まあまあ満足している」「あまり満足していない」「全然満足していない」の4段階から選択。

Q 4 「あなたのお子さんは、あなたから見てどんな子どもですか」

- ・クラスの中でもリーダー的なタイプで、委員などをまかされることが多い
- ・クラスの同級生と比べると、態度や口ぶりなどが落ち着いていて大人っぽい
- ・勉強の成績は、クラスの中でも上位のほうである
- ・社交的で明るく、人を笑わせたりするのが好き

- ・真面目で、何に対しても真剣に取り組むタイプ
- ・病気やけが以外で学校を休むことはない

※「よくあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の4段階から選択。

Q 5 「日々のお子さんとのふれ合いは、どのくらいしていますか」

朝、子どもと一緒に食事をする／夜、子どもと一緒に食事をする／子どもの勉強や宿題の面倒をみる／
子どもと一緒に風呂に入る／子どもの長所や行いをほめる／子どもを叱る／
子どもの学校での出来事などについて聞く／子どもが料理作りを手伝う／子どもが料理以外の家事を手伝う／
子どもと散歩したり公園で遊ぶ／お父さんが料理をして家族で食べる

※「ほぼ毎日」「週に2、3日」「月1、2回～年に数回」「ほとんどない」の4段階から選択。

Q 6 「家庭での行事やイベントはどのくらいやっていますか」

子どもを連れて博物館や美術館に行く／手作りのお菓子を作って家族で食べる／
記念日や週末に家族そろって外食を楽しむ／家族で旅行をする／キャンプやバーベキューなどをする／
親子で山登りやハイキングをする／フリマやお祭りなど地域活動に家族で参加する

※「ほぼ毎日」「月に1回程度」「年に1、2回」「ほとんどない」の4段階から選択。

Q 7 「必ず行なう年中行事は何ですか」「学校などの行事でよく参加しているのは何ですか」(複数回答)

●年中行事・・・お正月／七夕／クリスマス／お盆／子どもの誕生日／子ども以外の家族の誕生日／
ひな祭り、端午の節句など／その他

●学校行事・・・運動会／学芸会などの発表会／授業参観／入学式／卒業(卒園)式／
保護者会、PTA／スポーツや習い事などの試合や発表会

Q 8 「どんなときに、お子さんをほめますか。また叱りますか」(複数回答)

●ほめる・・・生活上の約束をよく守ったとき／テストの点がよかったり、賞をもらったとき／
兄弟姉妹の面倒をよくみたり、友だちにやさしくしたとき／よくお手伝いできたとき／その他

●叱る・・・家族との約束を破ったとき／友だちとの約束を破ったとき／友だちや兄弟姉妹をいじめたとき／

友だちとけんかしたとき／学校のきまりを破ったとき／学校や塾での勉強の成績が悪かったとき／家で勉強しなかったとき／うそをついたとき／その他

Q 9 「話題にすることが多いのはどんな話ですか」(複数回答、5つまで)

勉強の話／学校の話／友だちの話／塾の話／習い事の話／テレビ(番組、芸能人)の話／スポーツなどの話／(父親の)仕事の話／(父親の)昔話／親戚や近所の人のお話／天気の話／(子どもまたは父親の)趣味の話／音楽の話／旅行など家族のイベントの話／食事・食べ物のお話／(子どもの)進学の話／部活・クラブ活動の話／(子どもの)将来の職業の話／携帯電話についてのお話／パソコン、インターネットのお話／その他

Q 10 「次のうち、お子さんに教えたことのあるものはどれですか」(複数回答)

自転車の乗り方／包丁の持ち方／将棋や碁のルール／お風呂での頭の洗い方／よその人へのあいさつの仕方／服の着替え方／箸の持ち方／人生の心構え／パソコンの使い方／携帯電話の使い方／キャッチボールの仕方／正しい敬語の使い方／お金の使い方／野球やサッカーなどのスポーツ／政治に関すること／ヒモの結び方／マッチなどで火をつける方法／野口英世など偉人の話／宇宙のことや科学のこと／友だちとの付き合い方／昆虫や魚、植物などの名前／性に関すること／勉強のコツ／面白い本やマンガ／ことわざや格言／釣りやキャンプなどアウトドアの遊び／童話や昔話／日本の歴史／先祖のお話／世界情勢や紛争について／その他

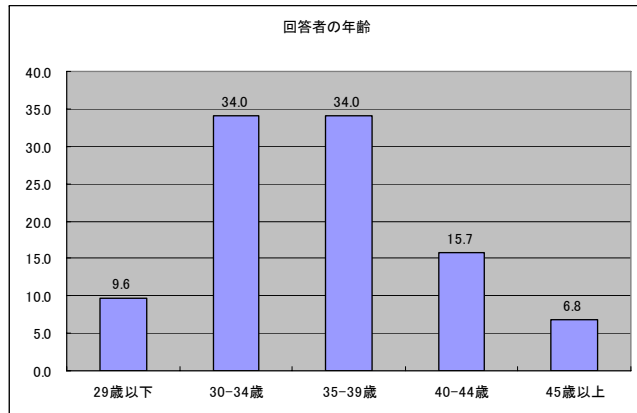
Q 11 「次のうち、お子さんに関することで知っているものはどれですか」(複数回答)

誕生日／血液型／好きな食べ物／嫌いな食べ物／現在の身長・体重／得意な科目／苦手な科目／前回の通知表の内容／好きな色／学校で休み時間によくやる遊び／好きなテレビ番組／好きな芸能人／クラス名／いちばん親しい友だちの名前／将来の夢／担任の先生の名前や性格／好きなマンガ／好きなキャラクター／通っている通学路／好きな異性がいるかどうか／1日に何時間勉強しているか／進学の希望について／お小遣いの額／1日に何時間ゲームをしているか／1日に何時間テレビを見ているか／最近読んだ本のタイトル／その他

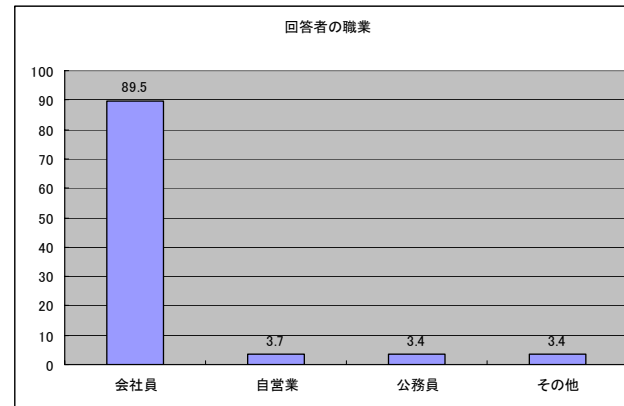
■集計結果■

Q1・・・(回答者の属性)

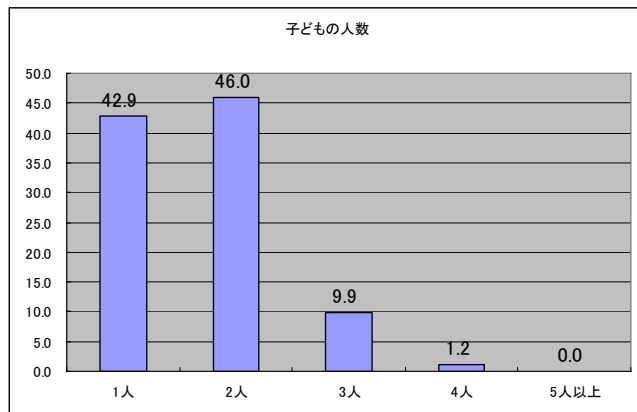
●年齢構成



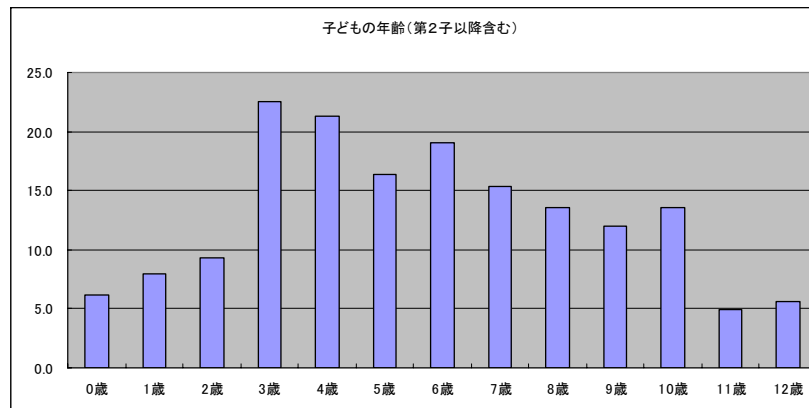
●職業



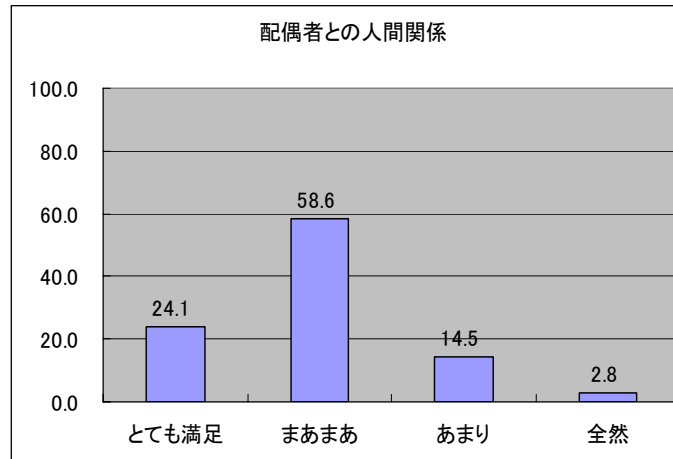
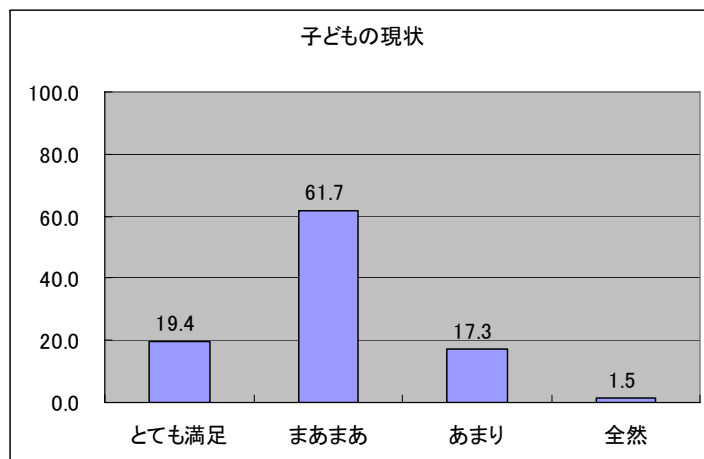
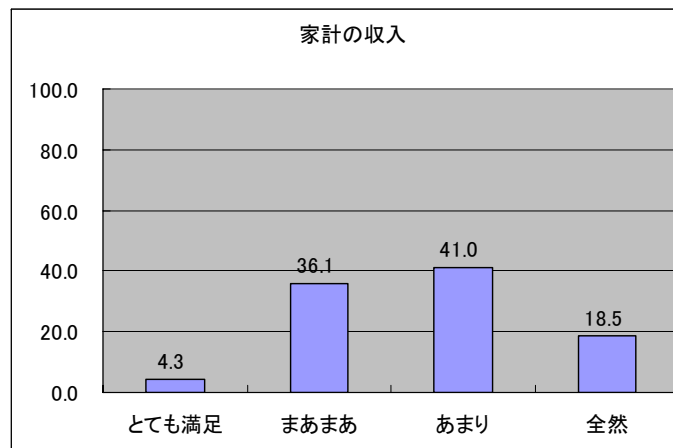
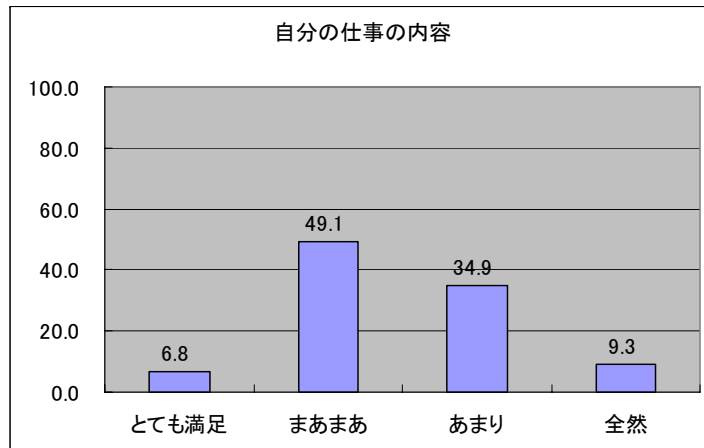
●子どもの人数



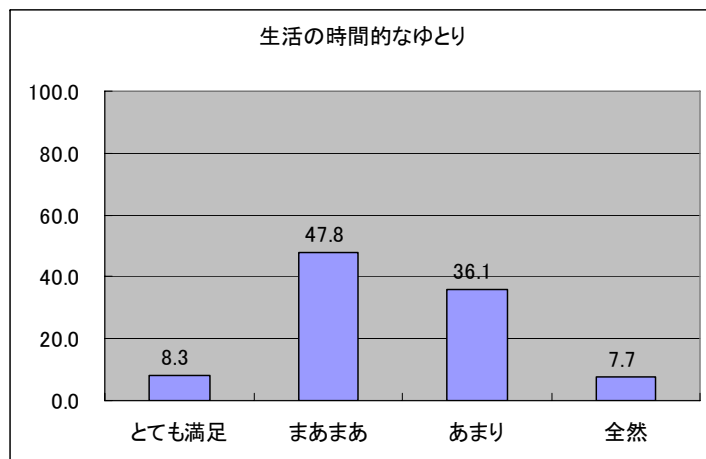
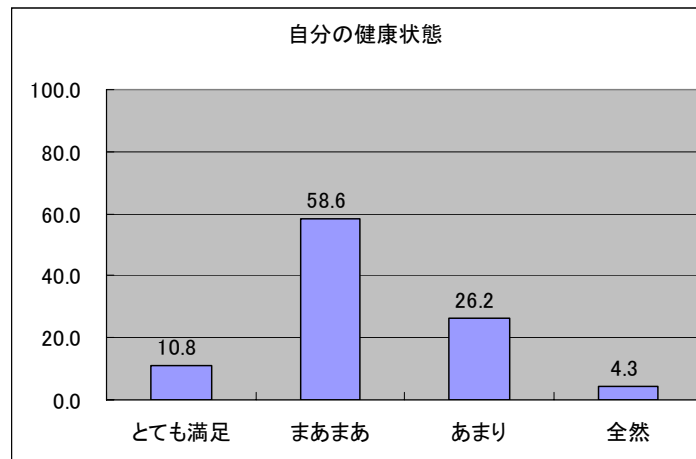
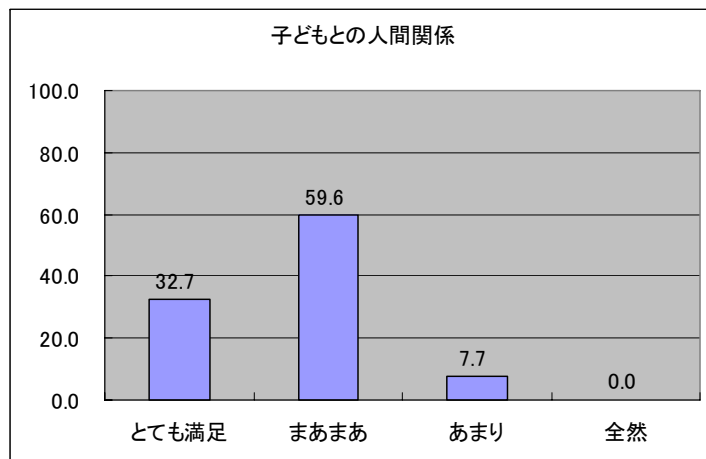
●子どもの年齢



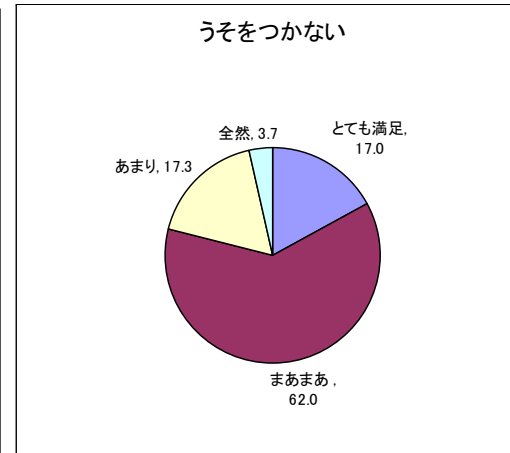
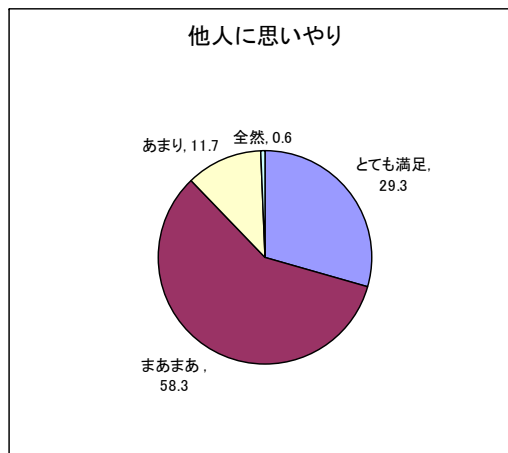
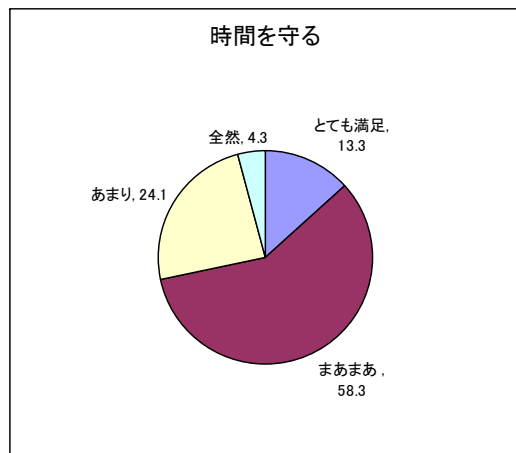
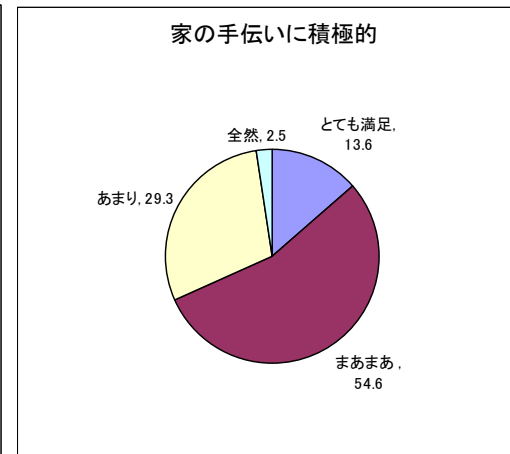
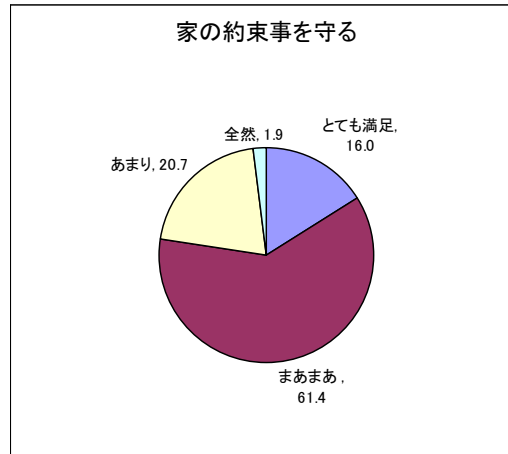
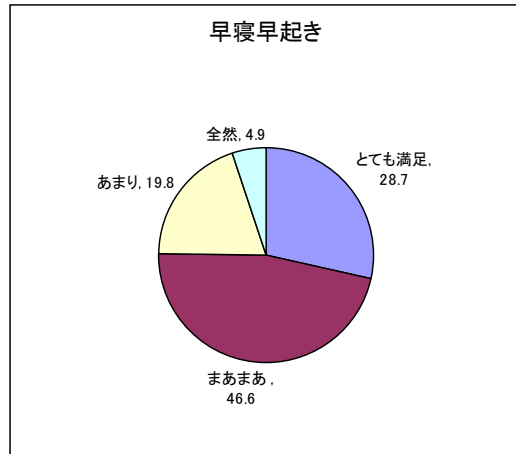
● Q 2 . . . あなたは今の生活に満足していますか？ 1/2



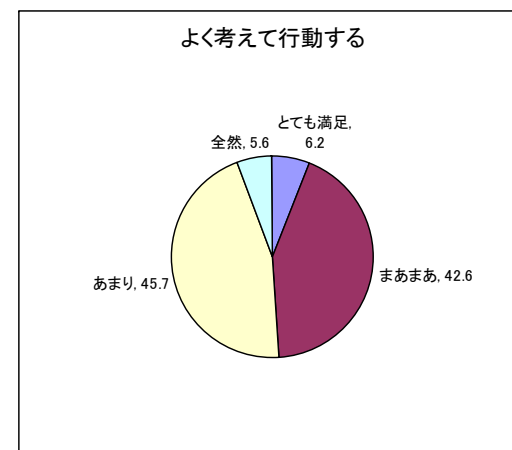
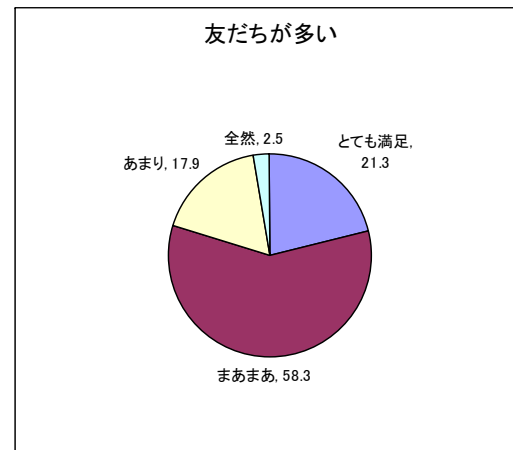
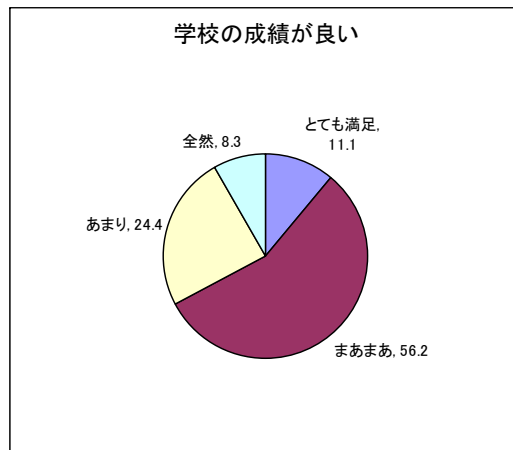
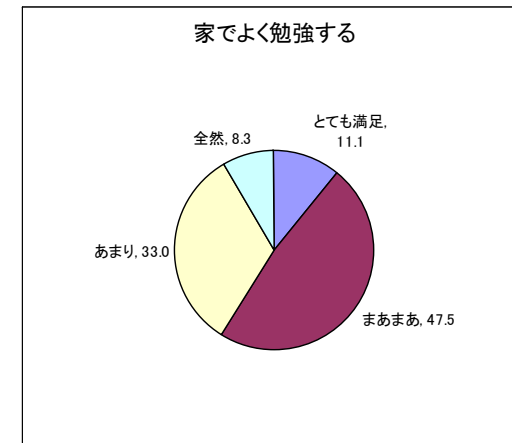
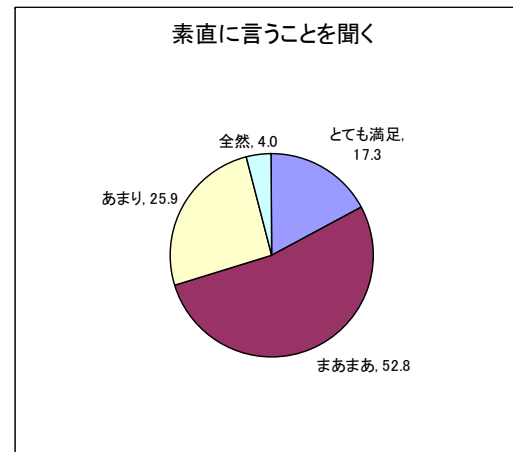
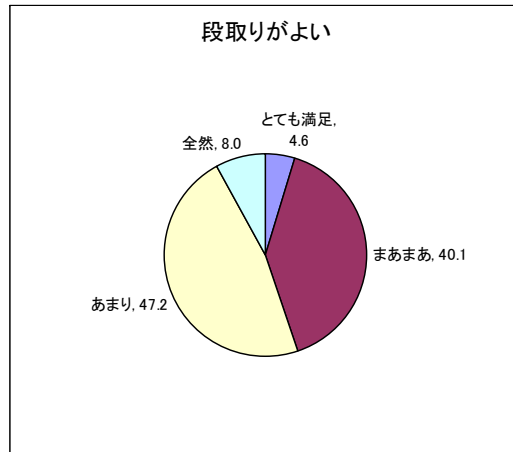
● Q2・・・あなたは今の生活に満足していますか？ 2/2



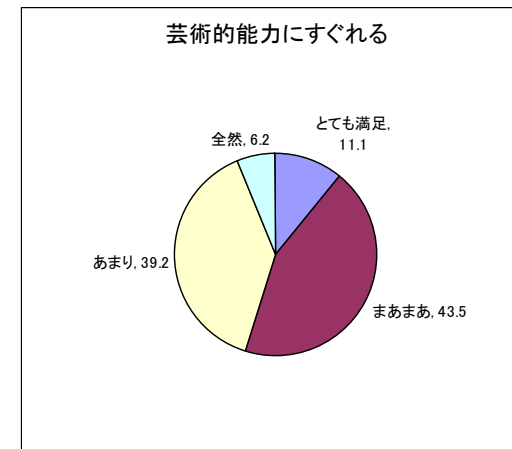
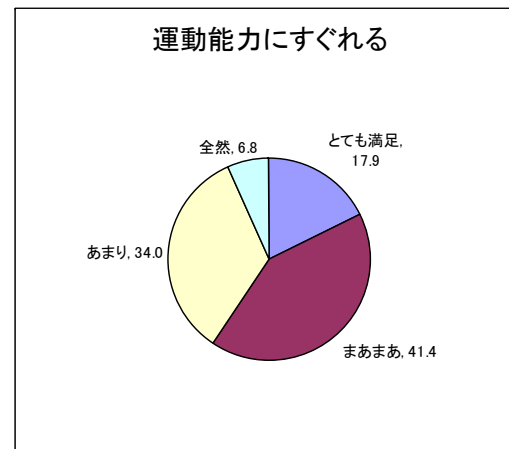
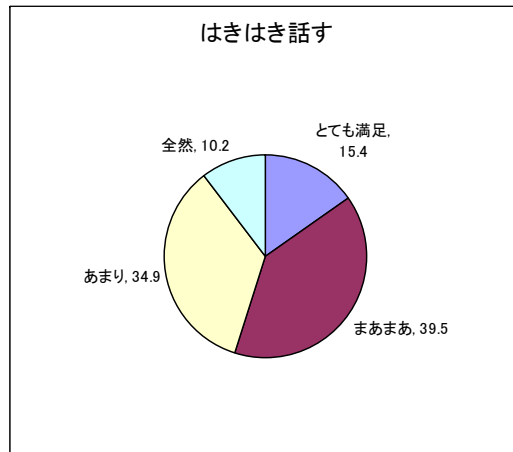
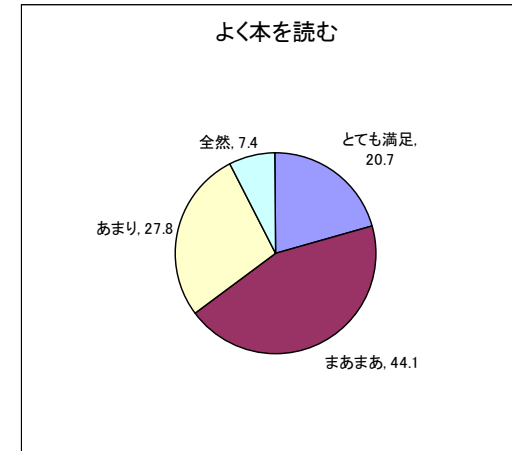
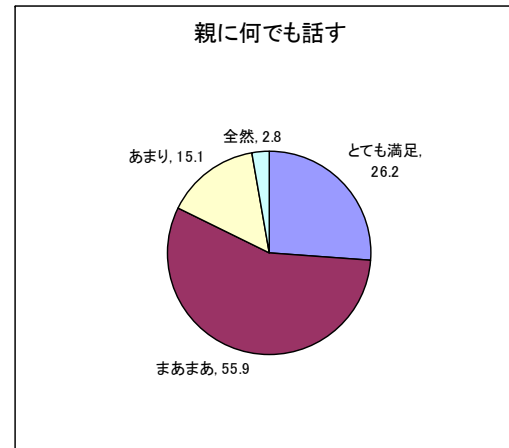
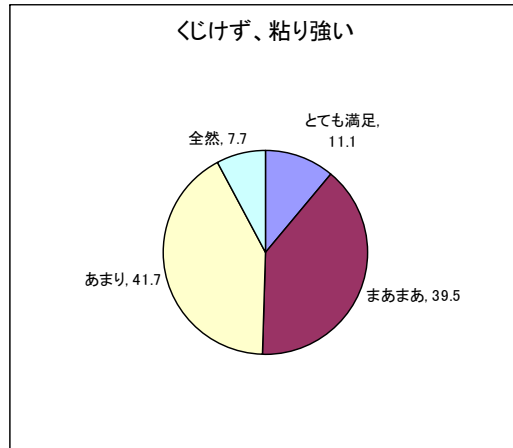
●Q3・・・あなたは現在のお子さんのようにどのくらい満足されていますか？ 1/3



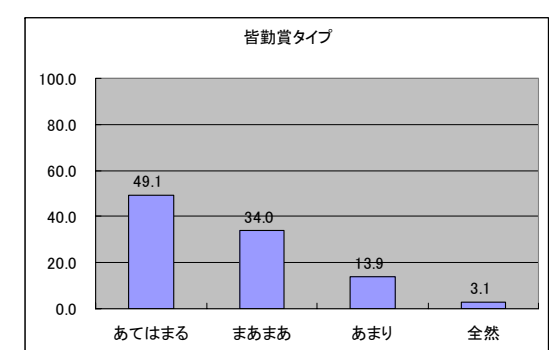
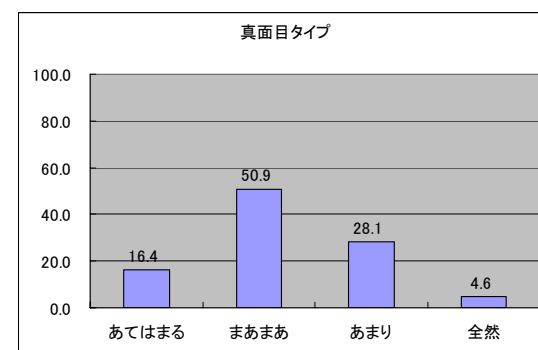
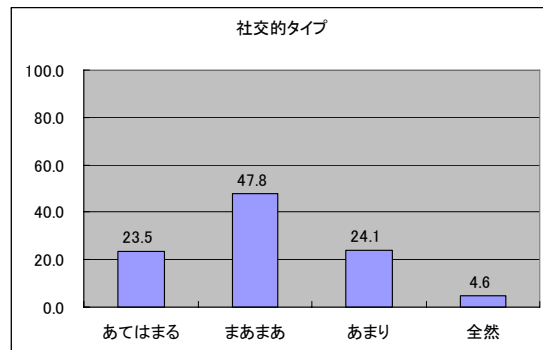
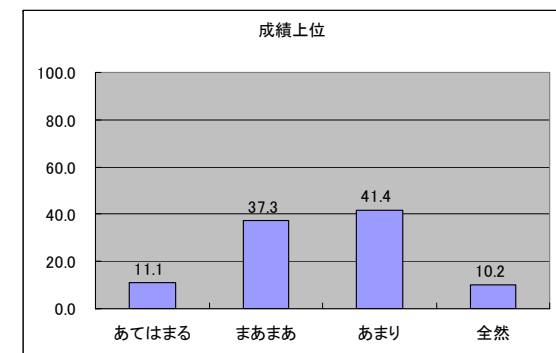
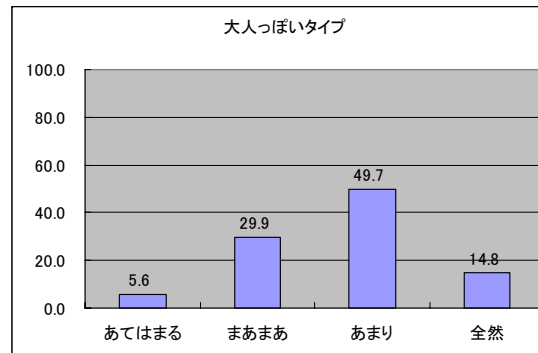
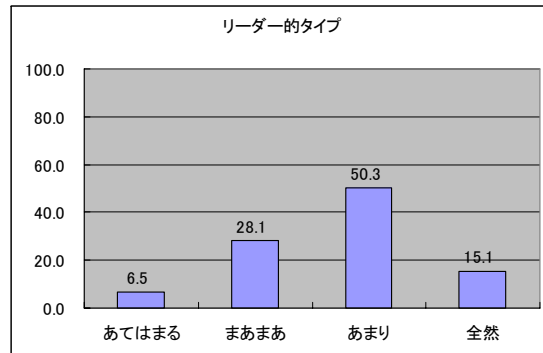
● Q3・・・あなたは現在のお子さんのようすにどのくらい満足されていますか？ 2/3



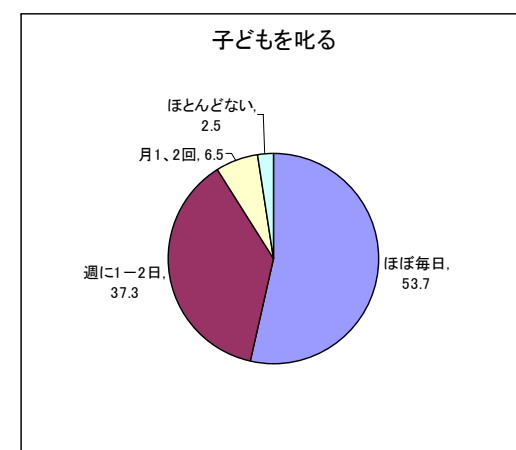
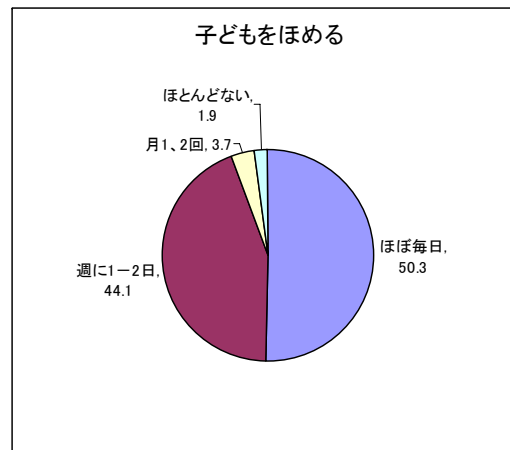
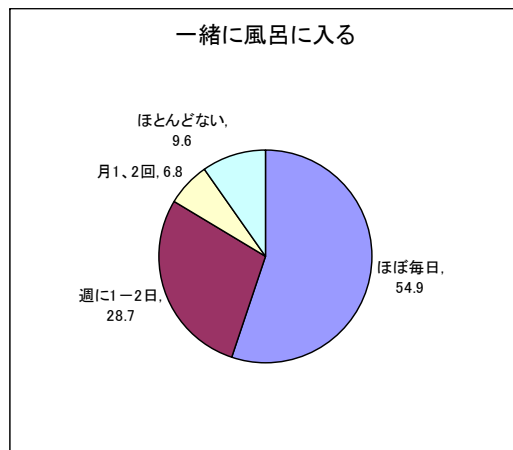
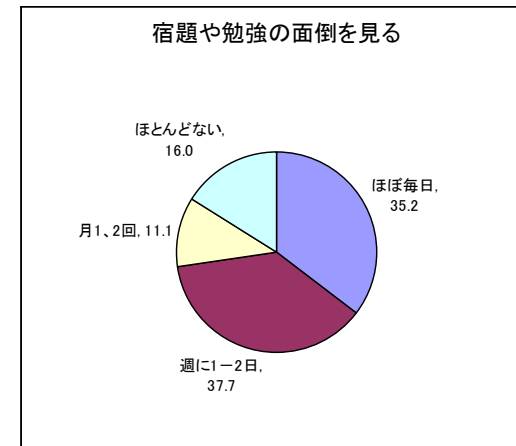
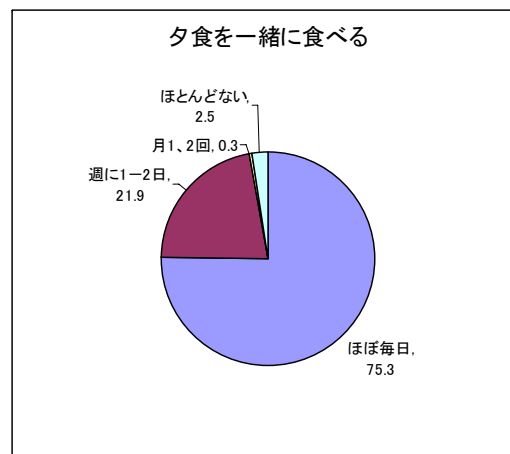
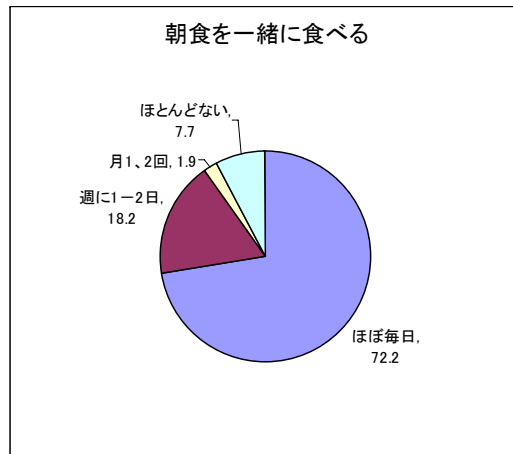
●Q3・・・あなたは現在のお子さんのようすにどのくらい満足されていますか？ 3/3



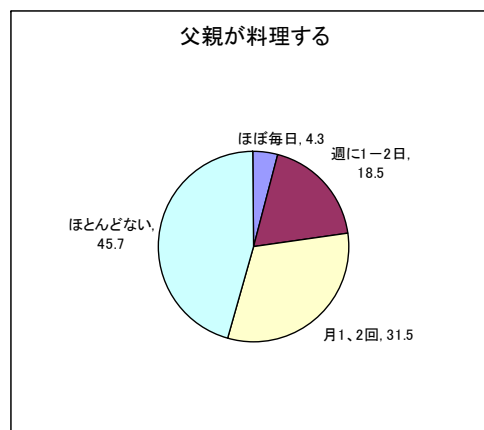
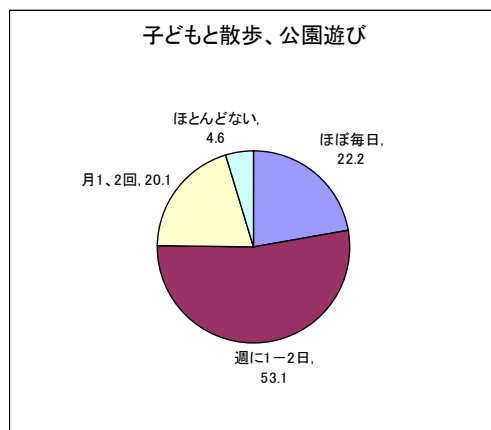
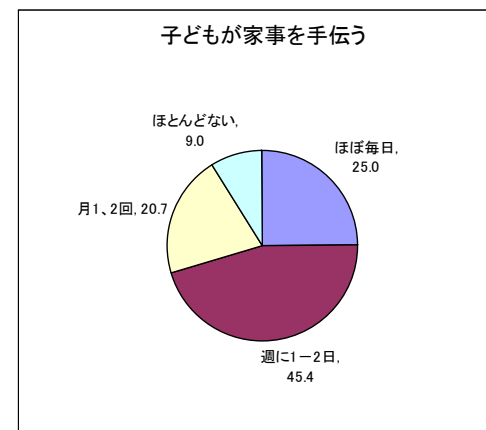
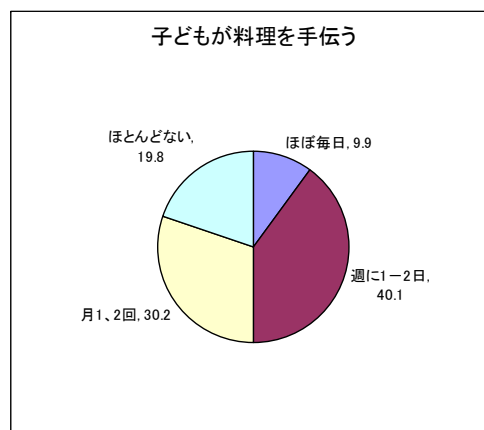
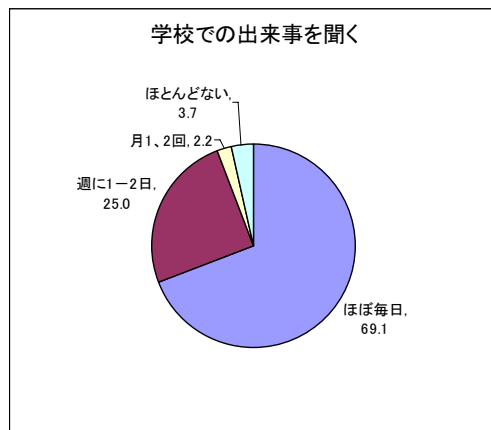
● Q 4 . . . あなたのお子さんは、あなたから見てどんな子どもですか？



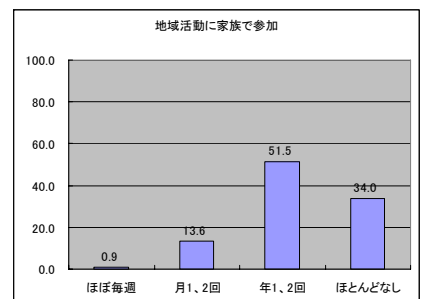
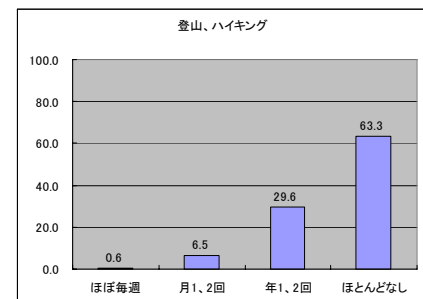
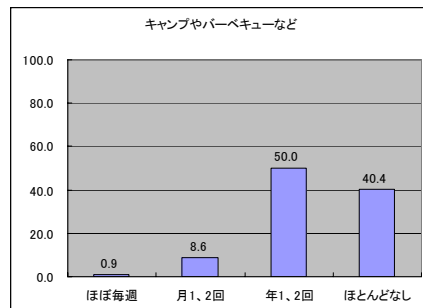
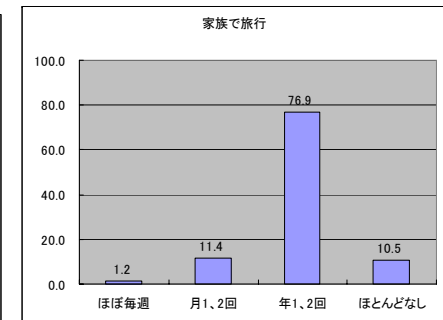
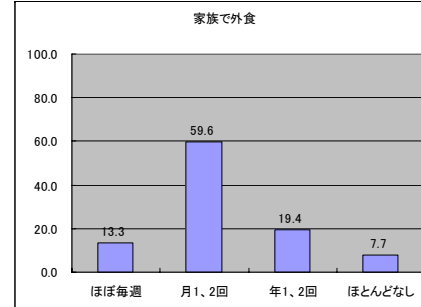
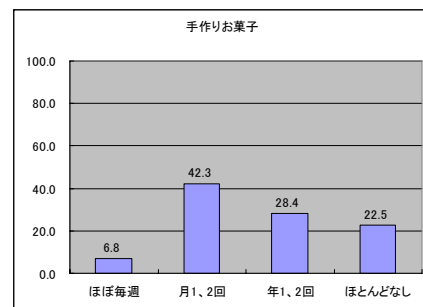
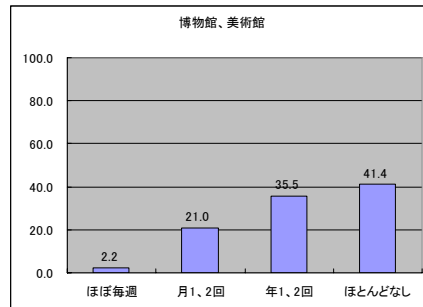
●Q5・・・日々のお子さんとのふれ合いは、どのくらいしていますか？ 1/2



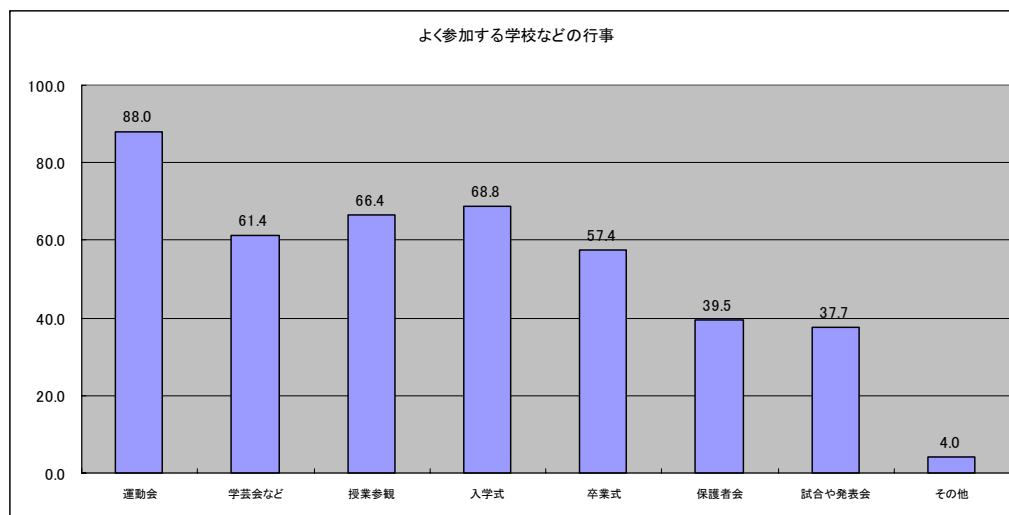
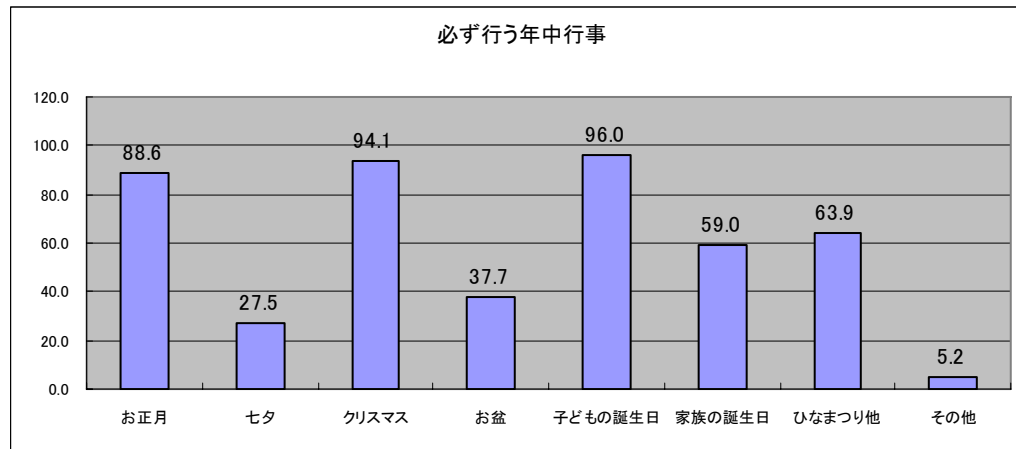
●Q5・・・日々のお子さんとのふれ合いは、どのくらいしていますか？ 2/2



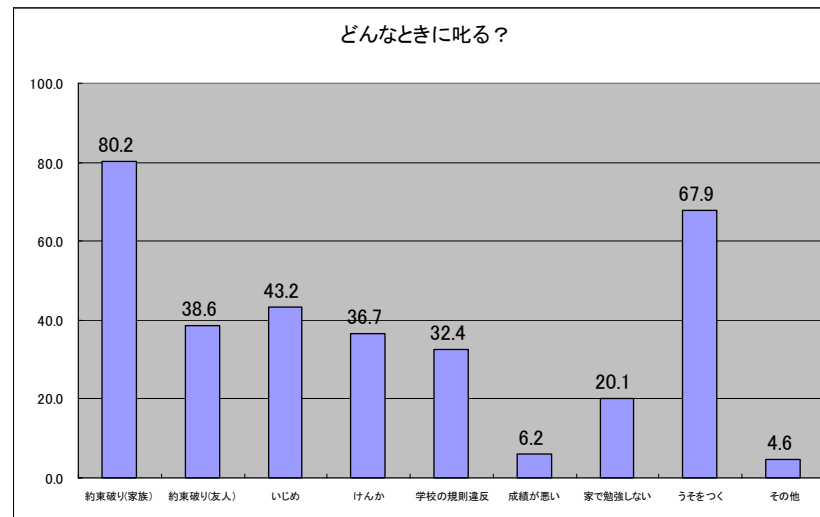
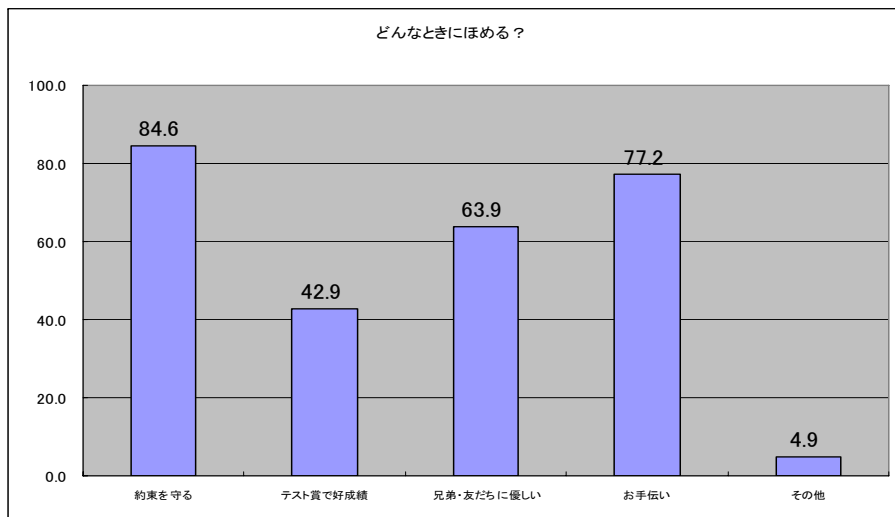
●Q6・・・家庭での行事やイベントはどのくらいやっていますか？



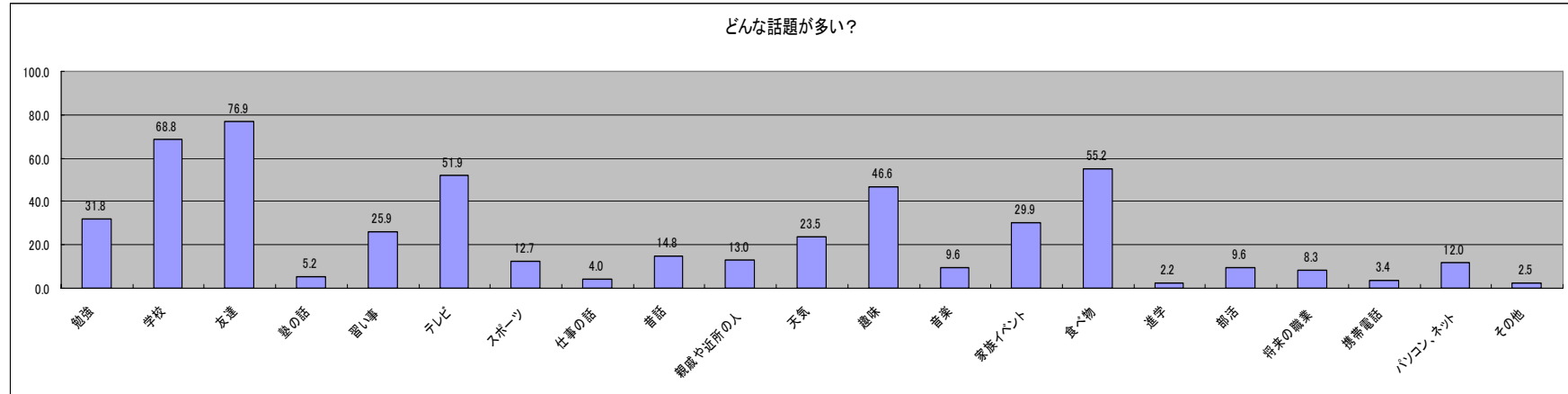
●Q7・・・必ず行なう年中行事は何ですか？ 学校などの行事でよく参加しているのは何ですか？



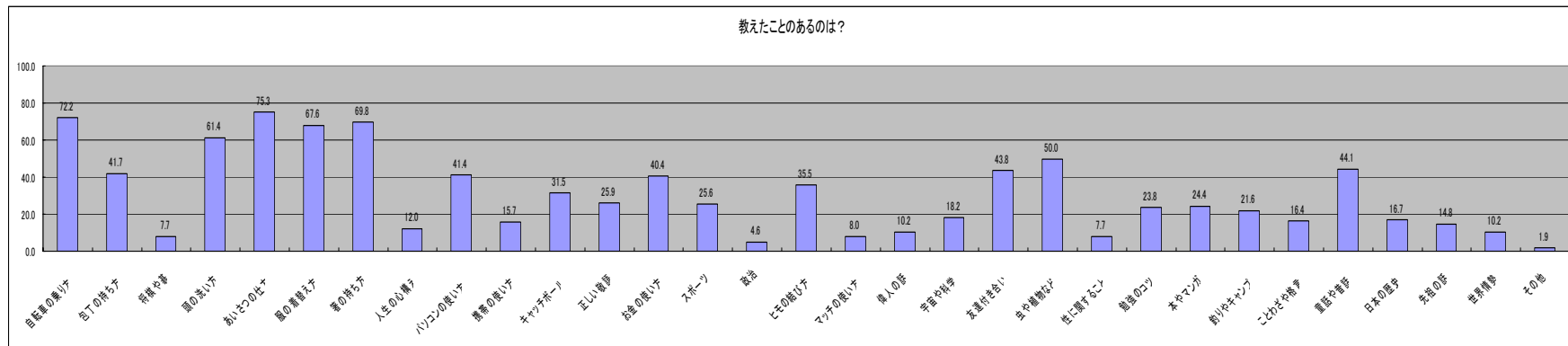
Q8・・・どんなときに、お子さんをほめますか。また叱りますか？（複数回答）



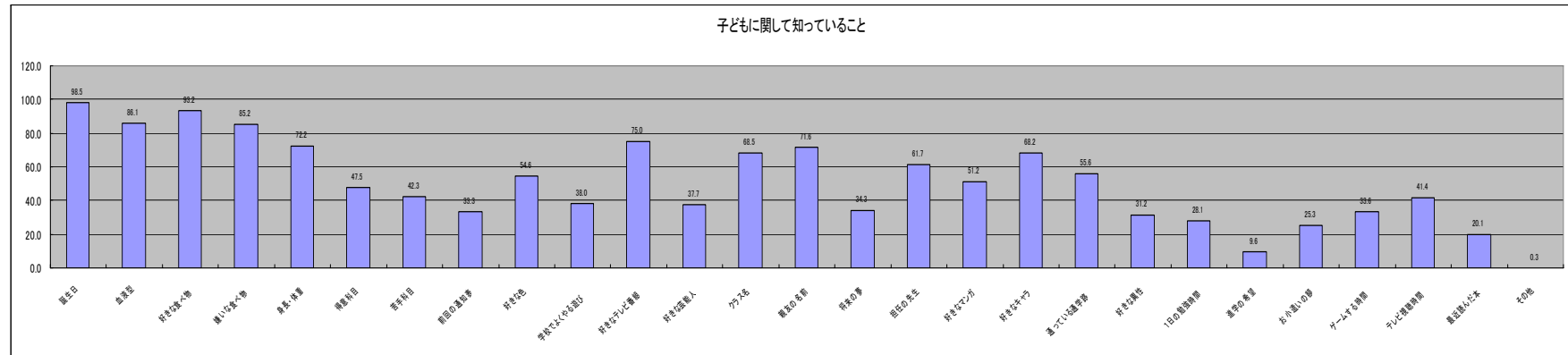
Q9・・・話題にすることが多いのはどんな話ですか？（複数回答、5つまで）



Q10・・・次のうち、お子さんに教えたことのあるものはどれですか？（複数回答）



Q 1 1 . . . 次のうち、お子さんに関することで知っているものはどれですか？（複数回答）



テーマ分析・1 親の生活が充実していれば、子どもも良く育つのか？

クロス集計の方法と分析について

父親の生活の満足項目ごとに子どもの満足度の相関関係を比較して集計した。具体的には、

Q2 「あなた（回答者である父親）は、今の生活に満足していますか」

Q3 「あなたは現在のお子さんのようすにどのくらい満足されていますか」

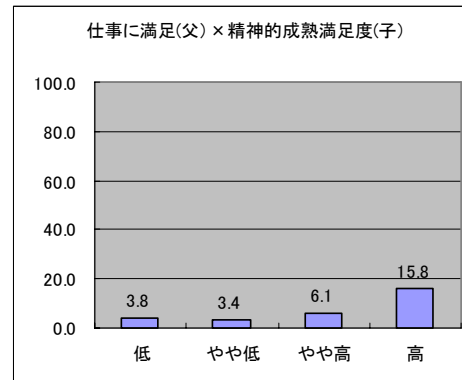
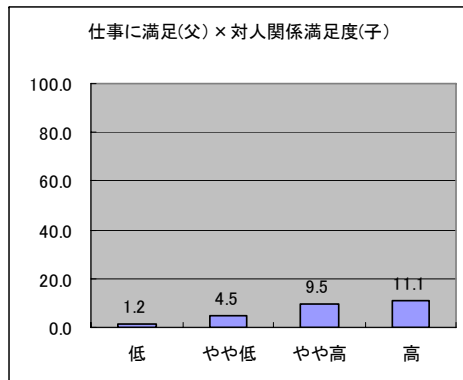
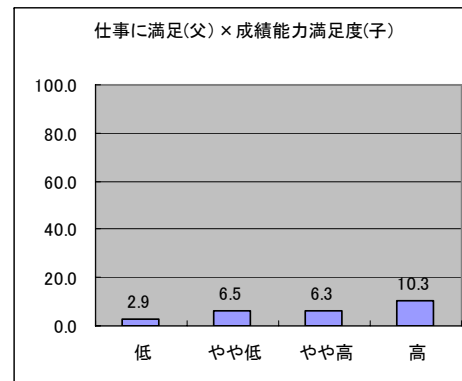
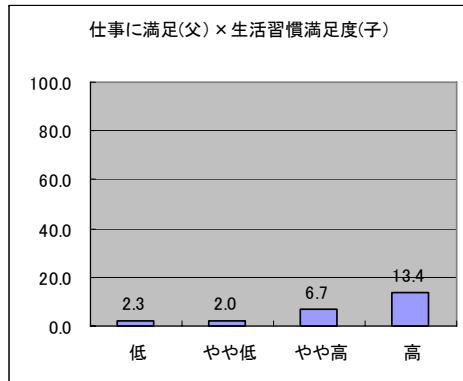
の2項目をクロスさせた。

●子どもへの満足度については、いくつかの項目をまとめ、「生活習慣満足度、対人関係満足度、成績能力満足度、精神成熟満足度」に分類して、それぞれを満足度によって数値化し、満足度が「低 やや低 やや高 高」の4段階に分類した。満足度が高いほど、それぞれぞれの項目においてその子どもの資質が高いことを示している。

●父親が現在の生活に高い満足状態を示している（すなわち高い生活レベルにある）グループを抽出し、その子どもが生活習慣面、勉強面、精神面などでどういう状態にあるのかを比較・分析した。

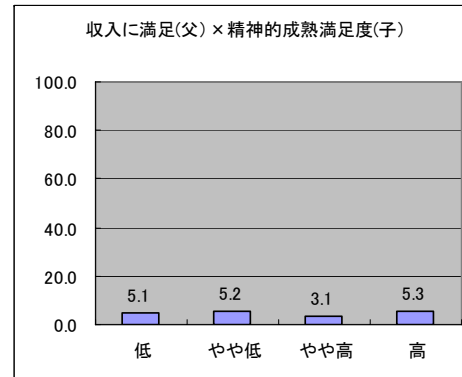
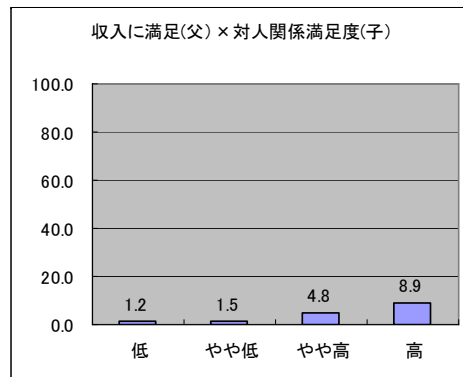
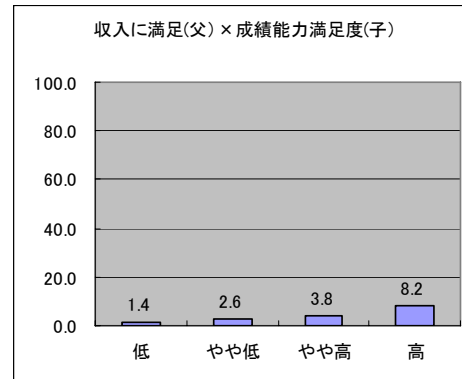
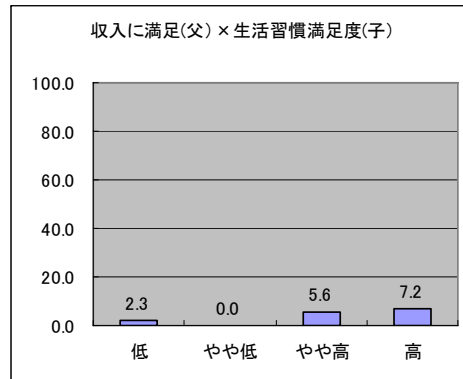
※コメント＝小泉隆義（学研教育総研・研究員）

● 「自分の仕事の内容にとても満足」 × 子どもに対する満足度



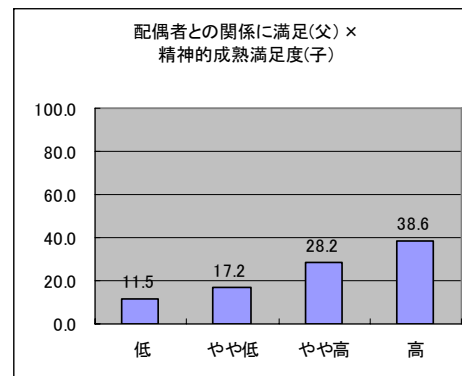
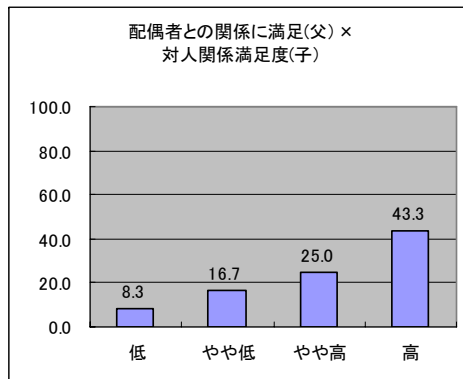
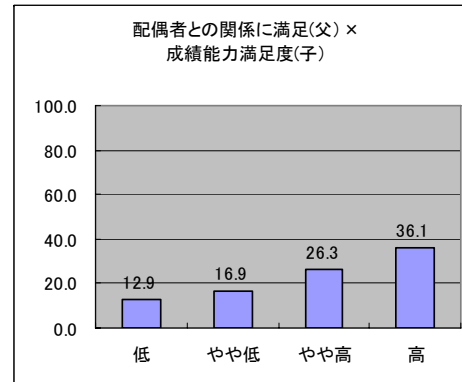
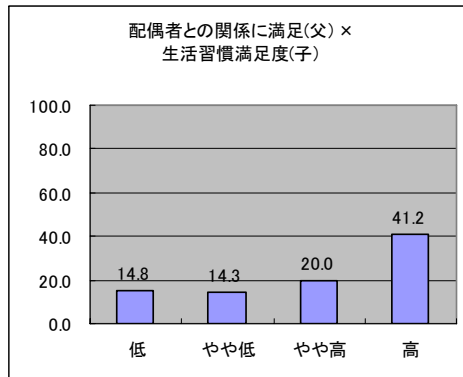
父親が自分の仕事に満足しているグループでは、子どもに対する満足度が高くなる傾向が見られる。仕事がうまくいっているということは、父親が社会的、精神的に一応は安定していることを示している。中でもこうした安定傾向が、子どもの精神状態の安定により強くつながる傾向があることが見受けられる。

● 「家計の収入にとても満足」 × 子どもに対する満足度



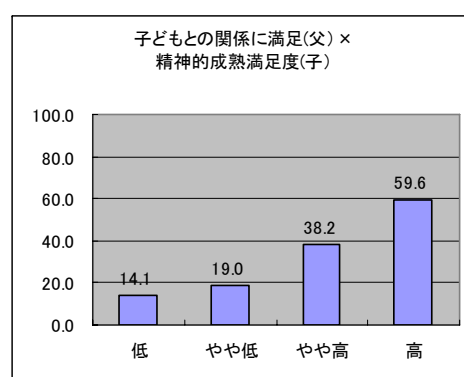
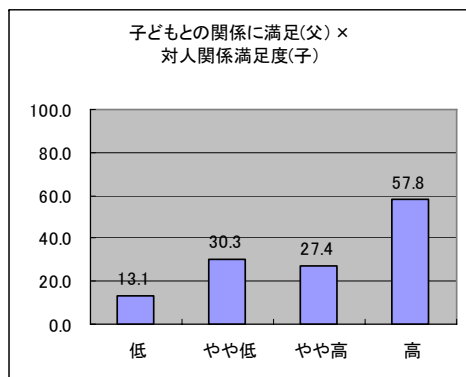
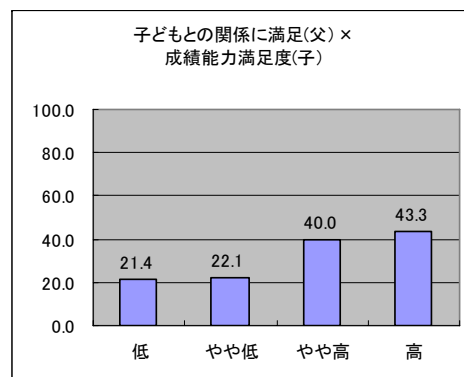
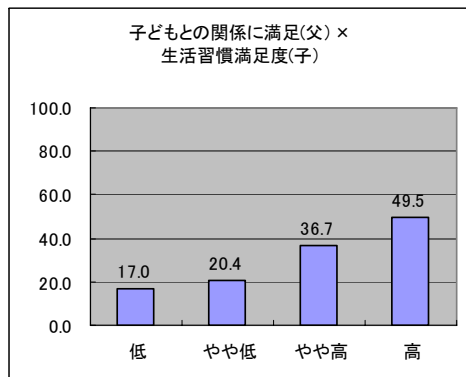
家計の収入が満足なグループでは、子どもの成績と対人関係の満足度にある程度の比例関係を示しているが、生活習慣や精神的成熟度などには、あまり影響がないようである。「心は金では買えない」といったところだろうか…。

● 「配偶者との人間関係にとっても満足」グループの、子どもに対する満足度



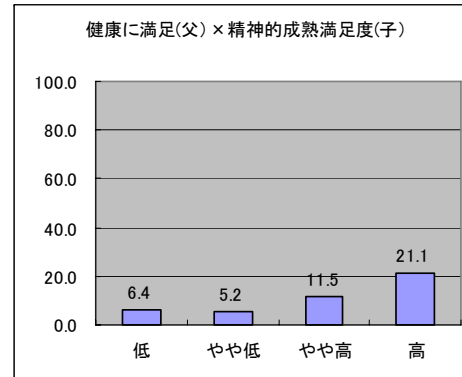
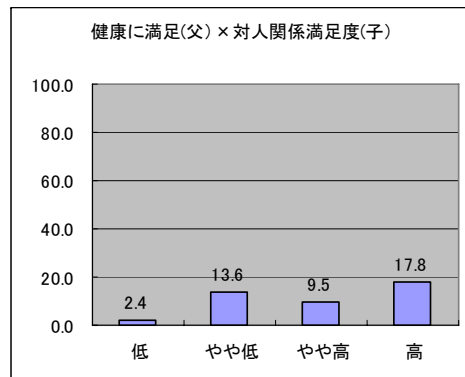
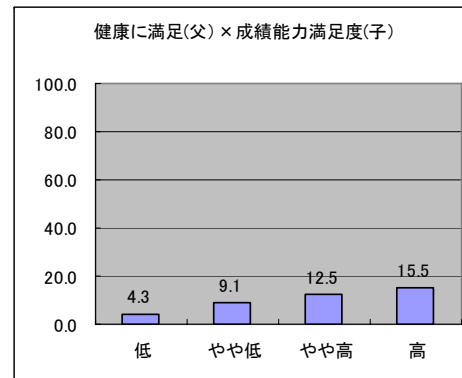
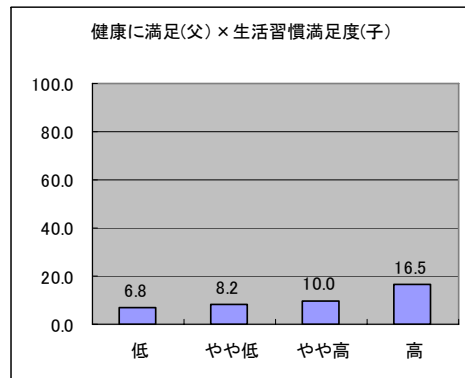
夫婦関係が満足なグループでは子どもへの満足度が高いことから、夫婦の良好な関係が子どもの成長に不可欠なことが、このデータからもわかる。

● 「子どもとの人間関係にとても満足」 × 子どもに対する満足度



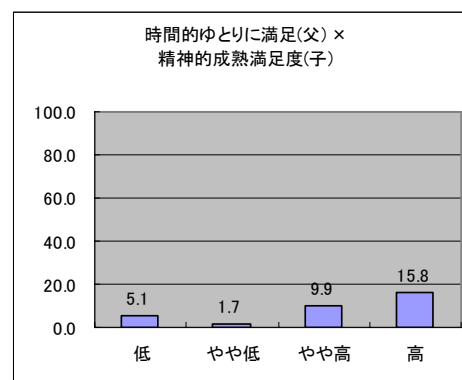
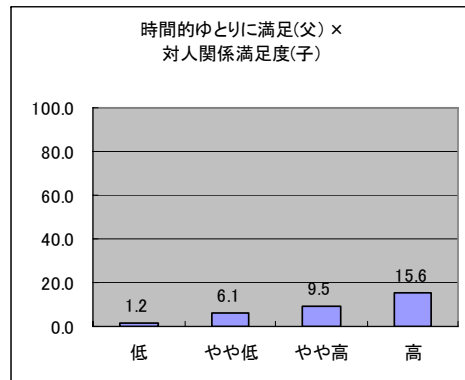
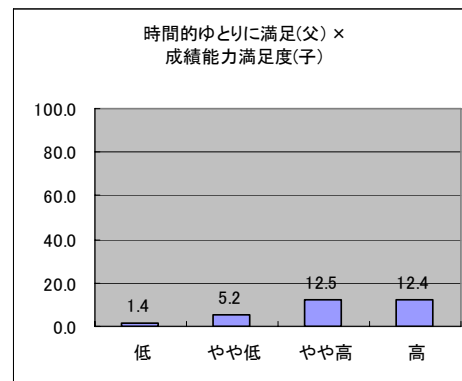
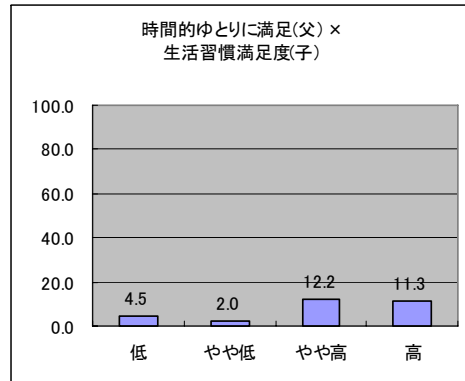
子どもとの人間関係が良好な場合も、子どもに対する満足度が高くなる傾向が見られる。

● 「自分の健康状態にとても満足」 × 子どもに対する満足度



健康状態に満足している場合、子どもへの満足度も、やはりある程度高い数値を示している。

● 「生活の時間的ゆとりにとても満足」 × 子どもに対する満足度



生活に時間的ゆとりがあるグループほど、子どもの満足度も高い相関関係を示している。

テーマ分析・2 子どものタイプと親子のふれ合いの密度は関係するか？

クロス集計の方法と分析について

父親の子どもとのふれ合いの頻度と子どものタイプの相関関係を比較して集計した。

Q4 「あなたのお子さんは、あなたから見てどんな子どもですか」

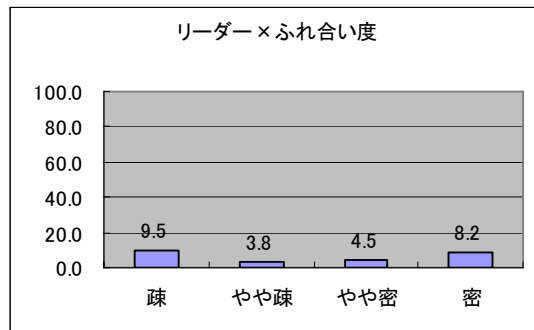
Q5 「日々のお子さんとのふれ合いは、どのくらいしていますか」

の2項目をクロスさせた。

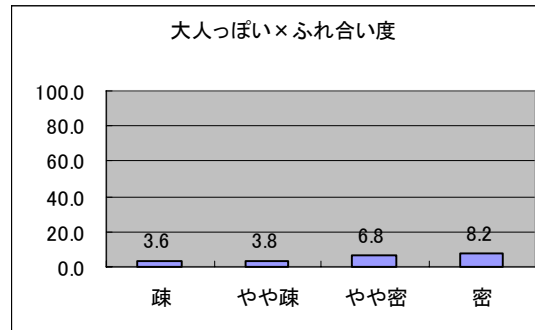
- 子どもとのふれ合いの頻度については、Q5の10項目を点数化して4段階に分け、ふれ合い度が「疎 やや疎 やや密 密」に分類し、子どものタイプとどんな関係が見られるか比較・分析した。
- それぞれの子どものタイプに「よくあてはまる」グループを抽出し、上記のふれ合い度の疎密との関係を比較・分析した。

※コメント＝梅崎洋（学研教育総研・研究員）

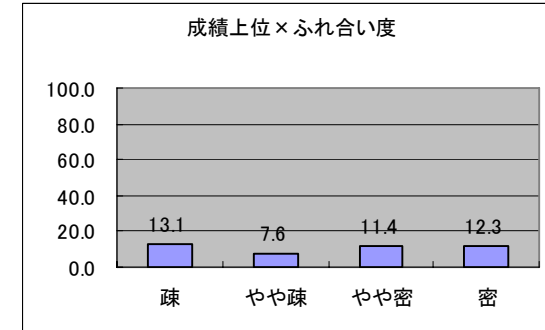
●リーダータイプによくあてはまるグループ



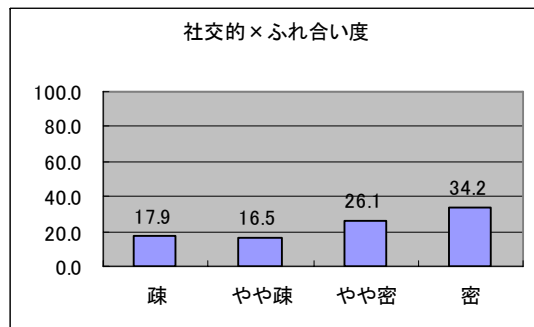
●大人っぽいタイプによくあてはまるグループ



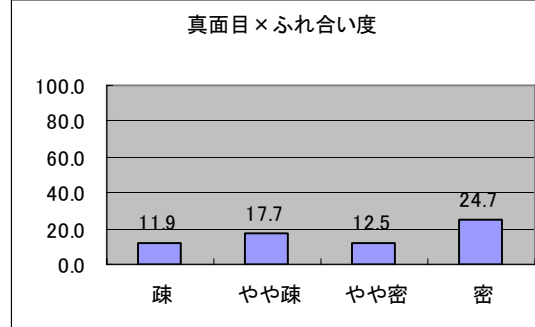
●成績上位によくあてはまるグループ



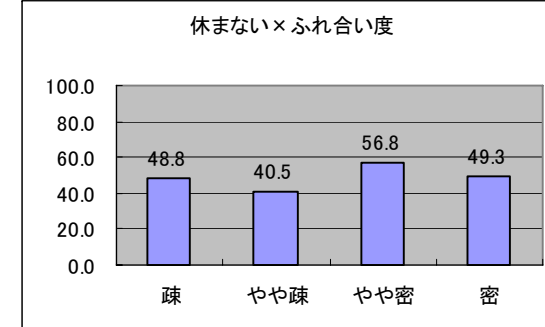
●社交的タイプによくあてはまるグループ



●真面目タイプによくあてはまるグループ



●休まないタイプによくあてはまるグループ



「社交的」「大人っぽい」「真面目タイプ」は、親子のふれ合い度が高いほどよく当てはまるグループとして挙げられる。「リーダータイプ」「成績上位」についてはふれ合い度が「疎」と「密」の両極においてややあてはまる傾向が見られる。「密」の場合は、親子のコミュニケーション、「疎」の場合は、子どもの親離れ・自立心が関係しているのかもしれない。「休まない」グループは、親子のふれ合い度に関係はあまり見られなかった。

テーマ分析・3 (項目別)親子のふれ合い方と、子どものタイプとの関係は？

クロス集計の方法と分析について

父親と子どもの具体的なふれ合い方と、子どものタイプの相関関係を比較して集計した。具体的には、

Q4 「あなたのお子さんは、あなたから見てどんな子どもですか」

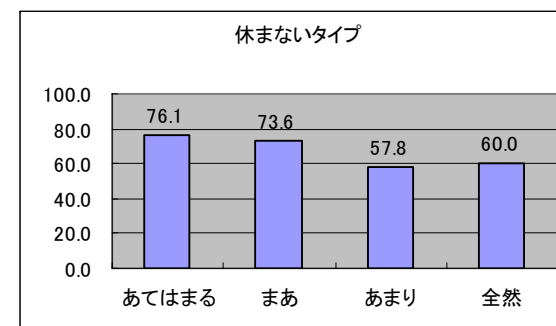
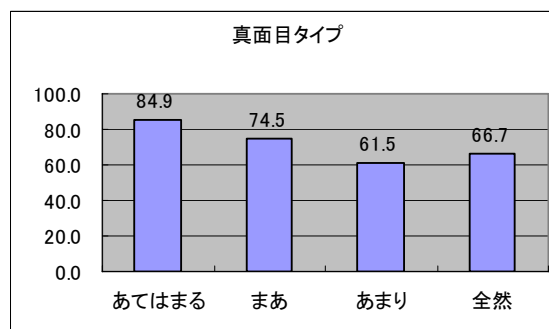
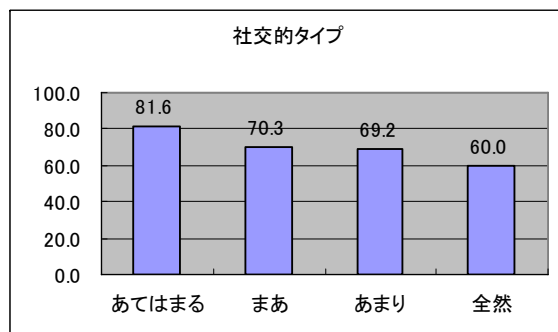
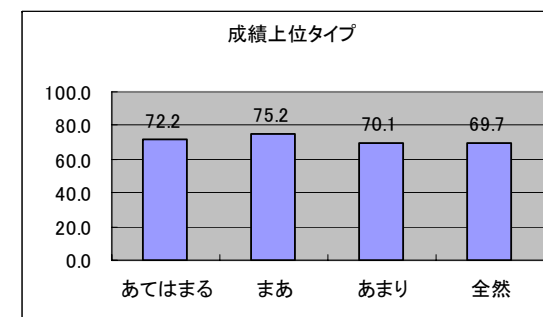
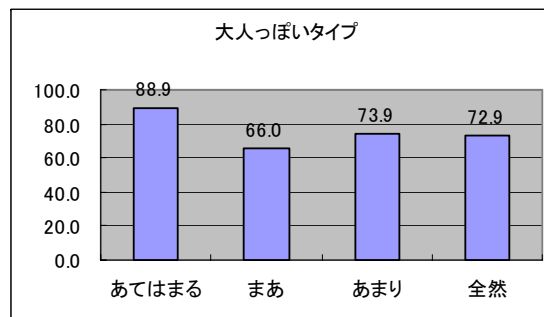
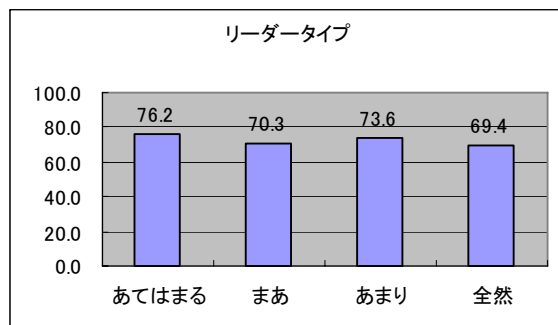
Q5 「日々のお子さんとのふれ合いは、どのくらいしていますか」(具体的な生活面での行動から訊く)

の2項目をクロスさせた。

●子どもとの、生活の上での具体的なふれ合い方については、それぞれ実行している頻度を「ほぼ毎日／週に1～2日／月に1～2回又は年に数回／ほとんどない」に分類して、数値化した。特に「ほぼ毎日している」と、その対極にある「ほとんどしない」と答えたグループを抽出し、その子どものタイプをそれぞれクロス集計にかけ、分析した。

※コメント＝川田夏子(学研教育総研・研究員)

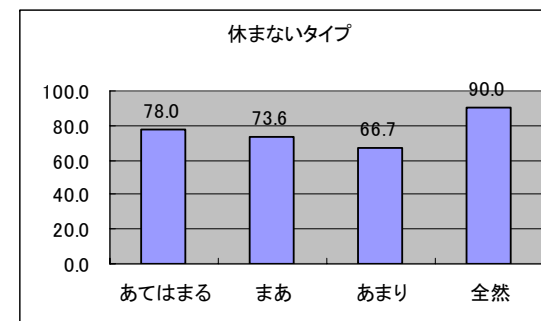
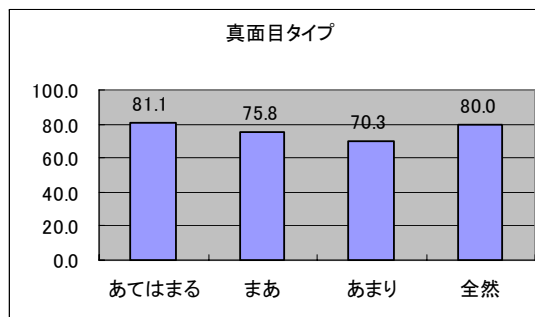
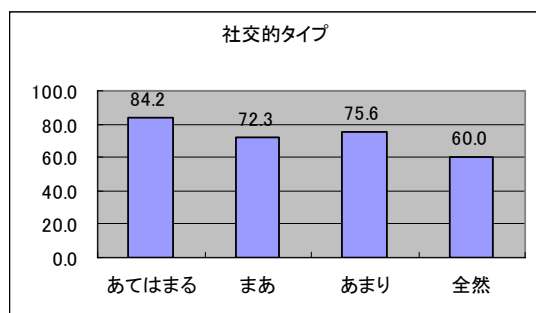
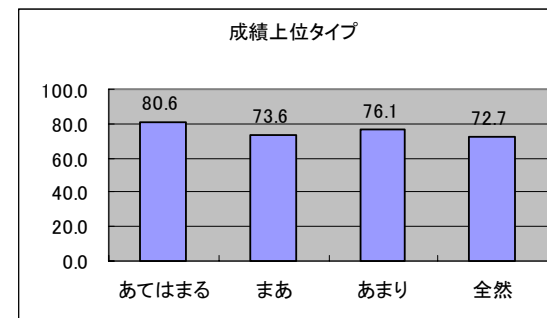
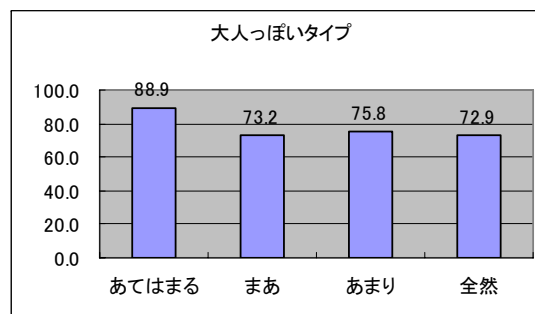
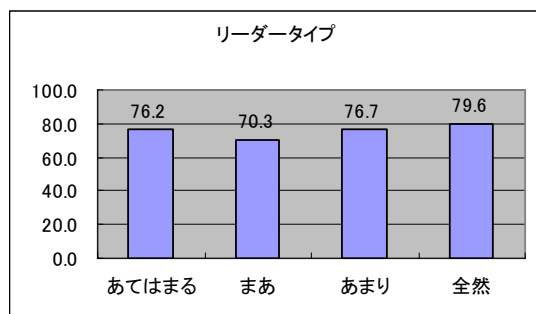
● 「毎朝一緒に食事をする」×子どものタイプ



※ 「あてはまる～全然」は、親から見て子どもが〇〇タイプであるかどうかを評価したもの。以下同様。

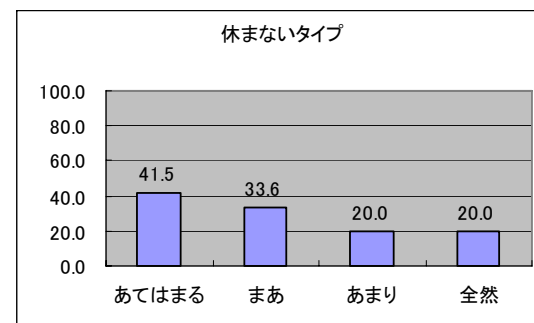
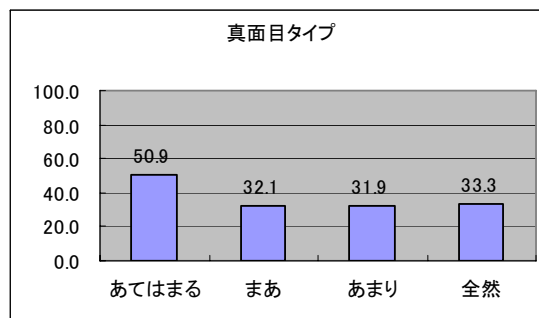
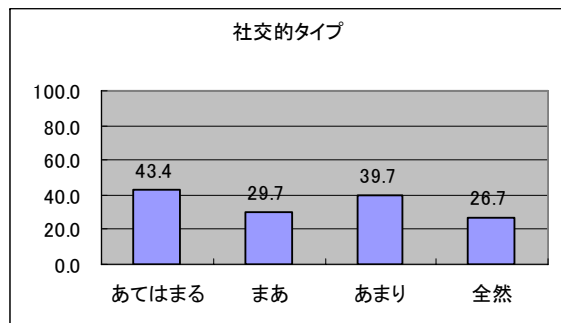
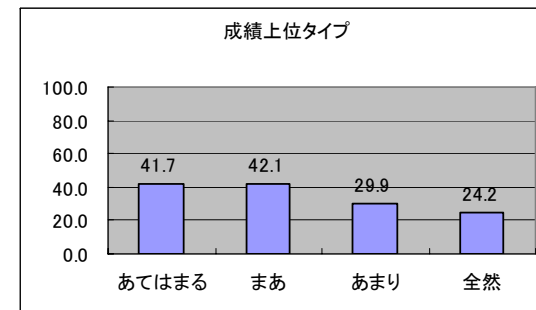
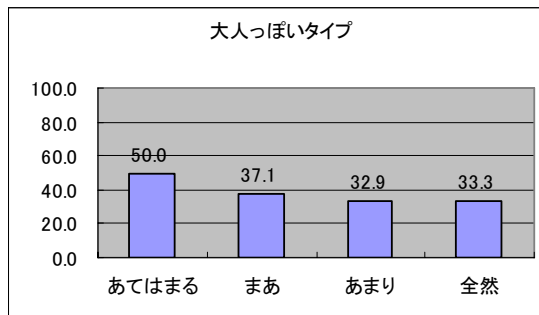
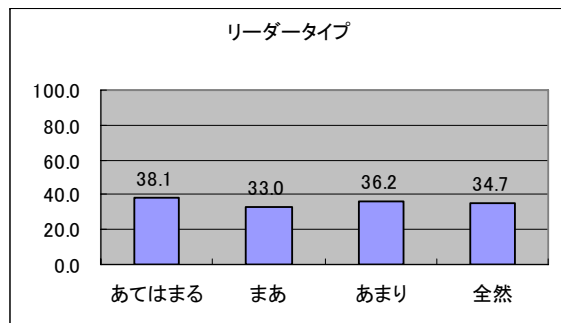
父親と「毎朝、一緒に食事をする」家庭の子どもでは、「大人っぽい、社交的で真面目」といった傾向がやや高く見られる。相関関係はさほど明確ではないが、父親と毎朝顔を合わせ会話することが、子どもに何らかの影響を与えている可能性は考えられる。

● 「毎晩一緒に食事をする」×子どものタイプ



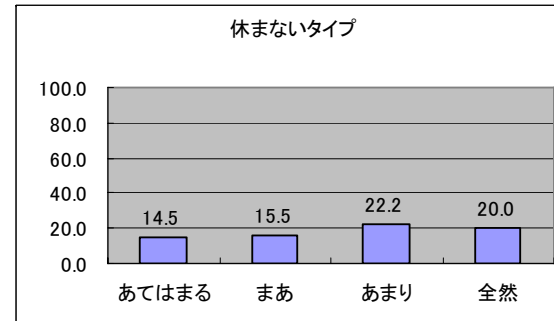
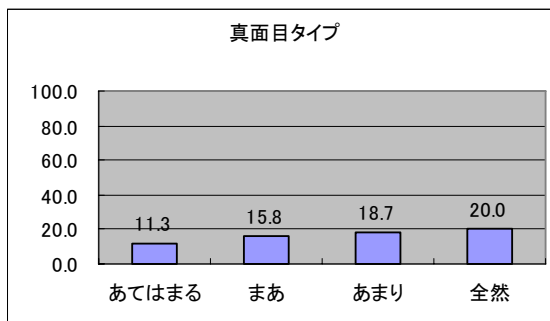
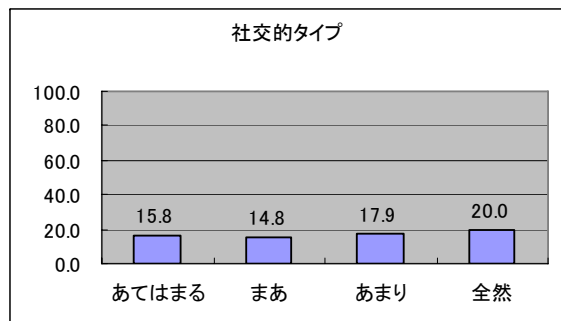
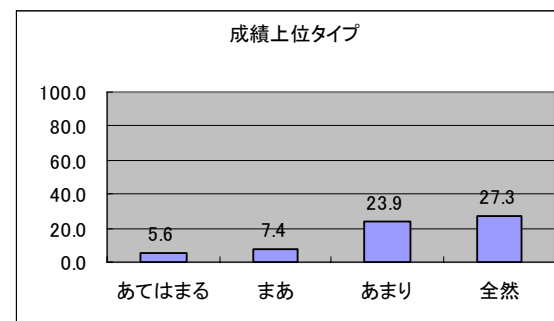
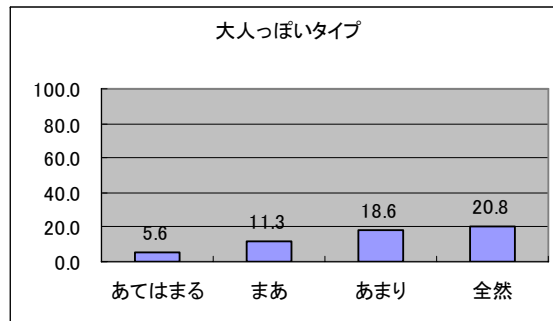
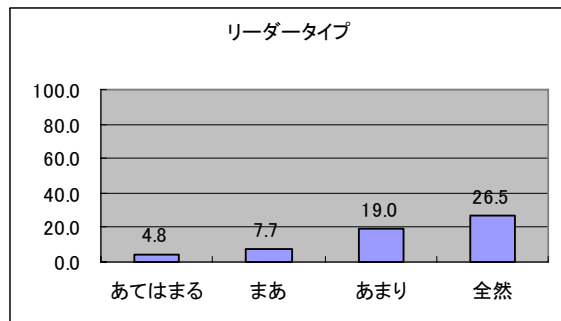
父親と「毎晩一緒に食事をする」子どもにも、「大人っぽい、社交的」といった傾向がやや見られる。また前項の朝食の場合とは逆に、学校を休むことに抵抗がないタイプが増えているが、理由はわからない。

「ほぼ毎日、勉強の面倒を見る」×子どものタイプ



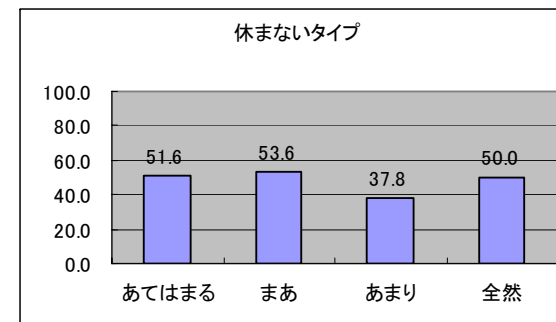
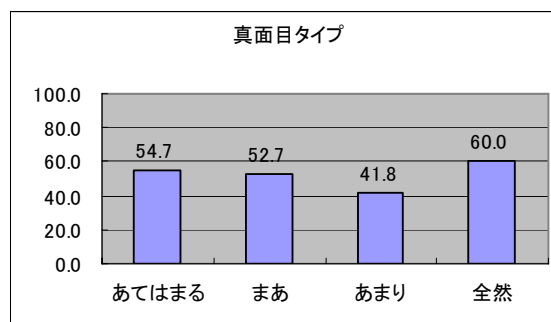
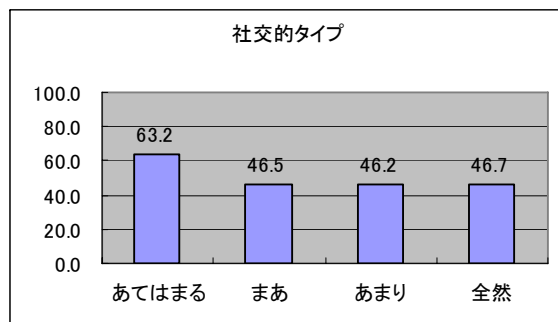
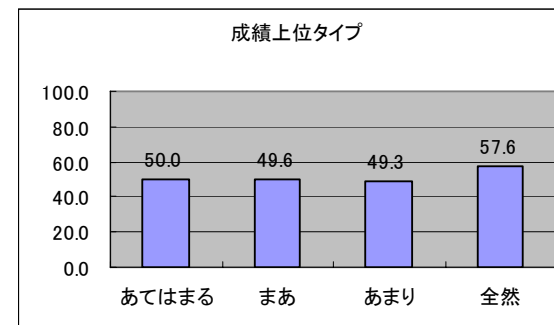
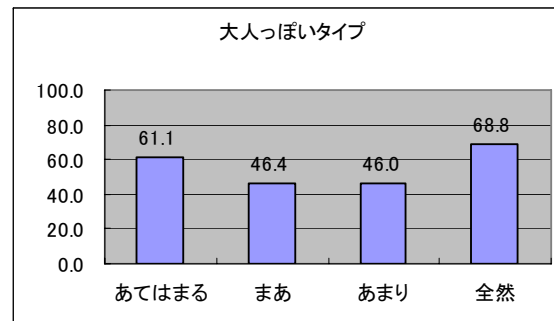
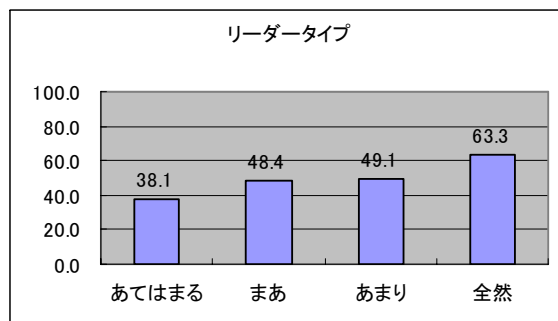
ほぼ毎日勉強をみると答えた父親の子どもでは、「大人っぽい」「成績上位」「真面目」という傾向が強い。また学校を休むことが少ない傾向も目立つ。

● 「ほとんど勉強の面倒を見ない」 × 子どものタイプ



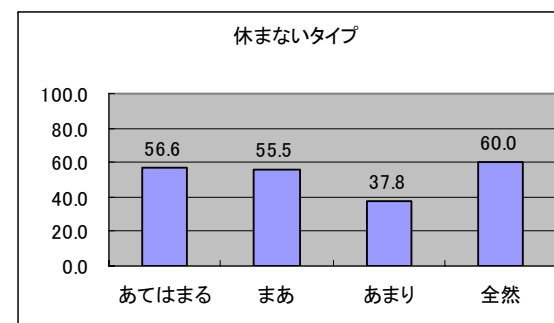
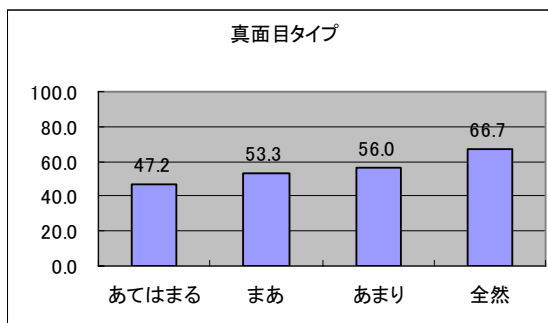
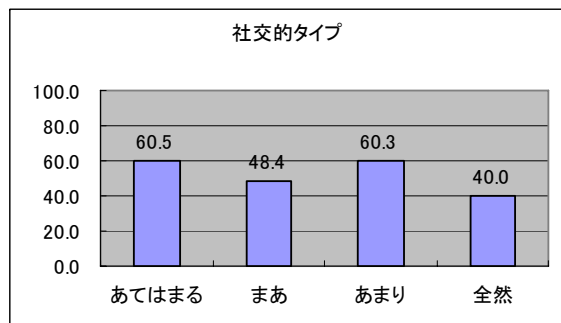
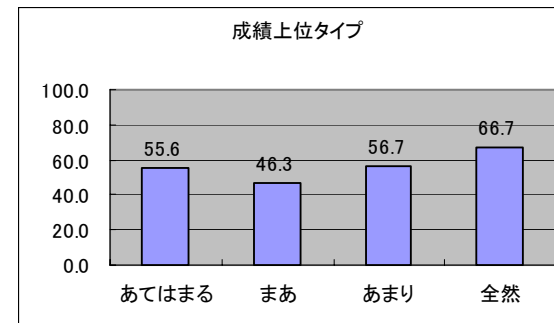
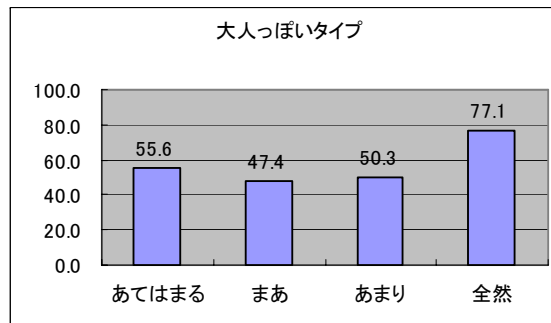
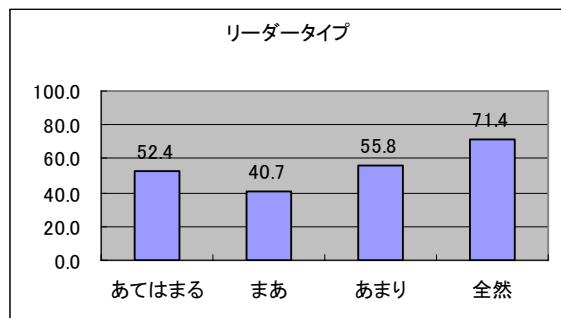
父親がほとんど勉強を見ない子どもたちは、全般的にややマイナス評価をされている傾向にある。これは毎日何らかの形で食事をともにする、毎日勉強を見ると答えた家庭の子どもとは反対の傾向を示している。

● 「ほぼ毎日ほめる」×子どものタイプ



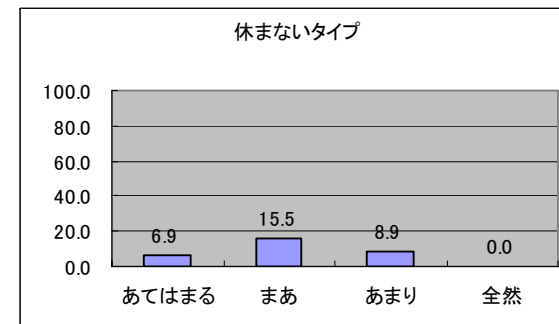
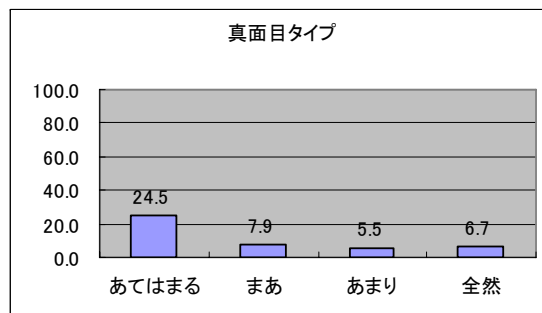
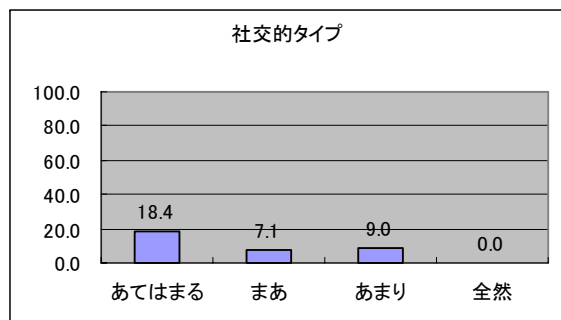
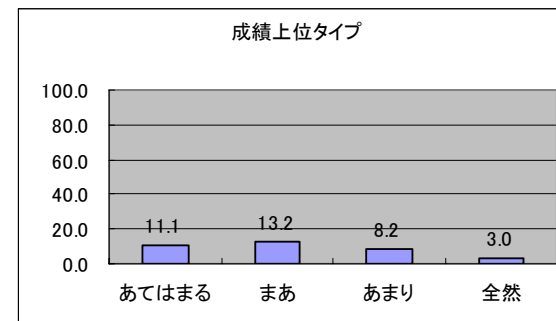
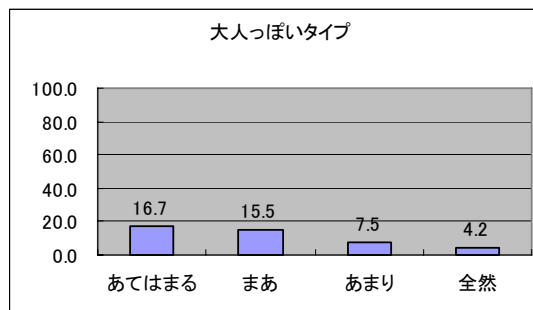
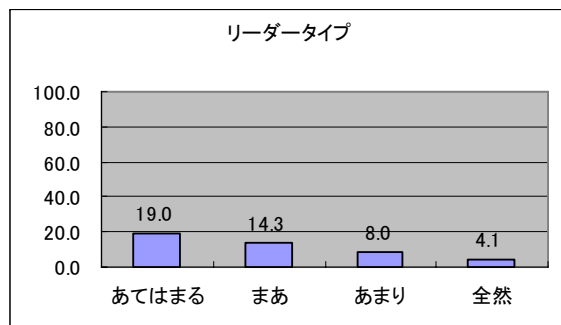
「ほぼ毎日こどもをほめる」父親の子どもでは、社交的だが成績に大きな差異はない。リーダーシップ、大人っぽい、に対する評価はむしろ低い。

● 「ほぼ毎日しかる」×子どものタイプ



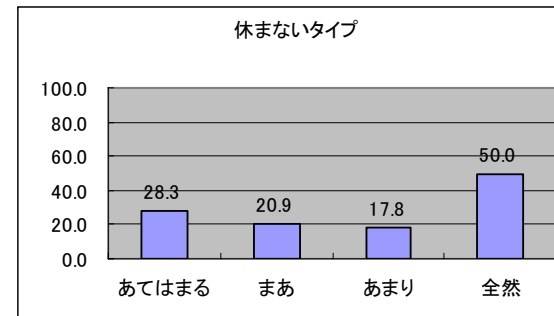
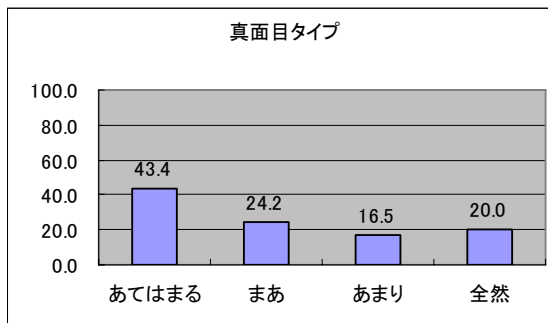
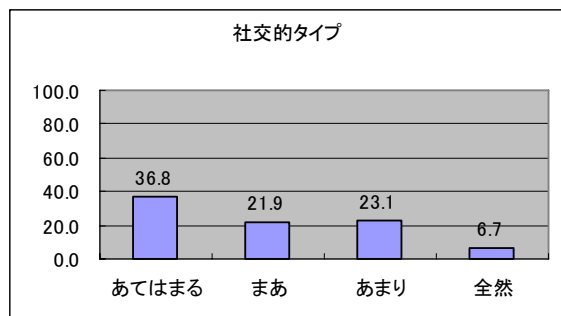
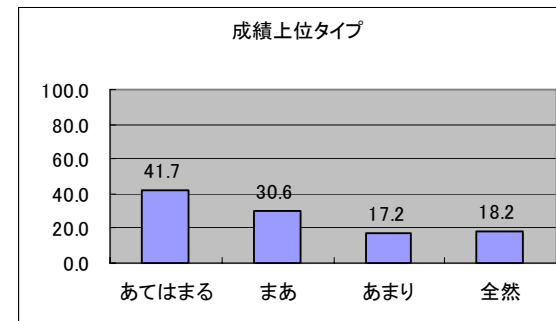
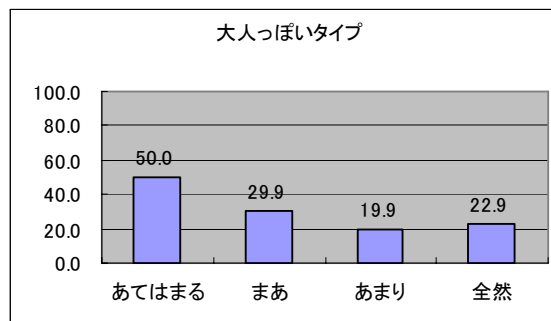
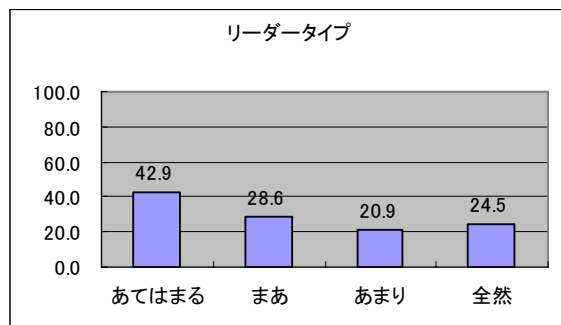
どの傾向でも「全然（だめ）」と答えているポイントが高い。しかることが多いので、そのまま子どもに対する評価も低い、とも捉えられる。「社交的タイプ」では、「明るいが落ち着きがない → やんちゃすぎて、しょっちゅうしかられる」という側面もあるのかもしれない。

● 「子どもがほぼ毎日料理を手伝う」×子どものタイプ



「成績は中の上。しかし、リーダータイプで、真面目で明るく社交的」という肯定的な傾向が見て取れる。「料理を手伝う」という、家族が生活が続けていく上で重要な役割の一端を手伝うことで、コミュニケーションが取れるのと同時に、子どもに対する信頼感が存在している事が感じられる。

● 「子どもがほぼ毎日家事を手伝う」×子どものタイプ



「料理を手伝う」子どもと同様の傾向が見て取れる。「家事を手伝う」ことで、コミュニケーションが密になり、子どもに対する信頼感が感じられる点も同様。また、成績が「上位」と答えている傾向も強い。

テーマ分析・4 家族でのイベントは、勉強の成績に影響するか？

クロス集計の方法と分析について

家庭でのイベントや年中行事の頻度と子どものタイプ、特に学力との相関関係を比較して集計した。具体的には、

Q4 「あなたのお子さんは、あなたから見てどんな子どもですか」

Q6 「家庭での行事やイベントはどのくらいやっていますか」

Q7 「必ず行なう年中行事は何ですか」(複数回答)

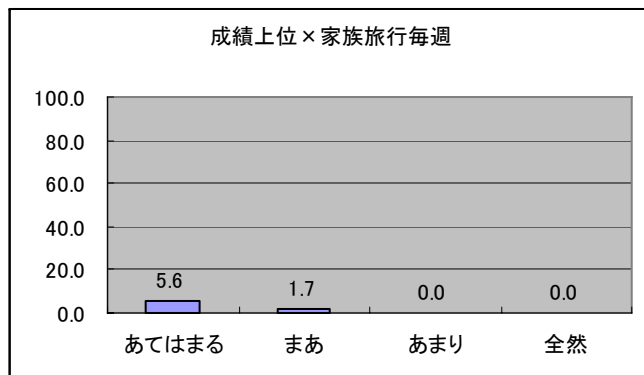
の3項目をクロスさせた。

- イベントと成績との間に相関関係があると思われる項目のみ抽出し、分析を加えた。

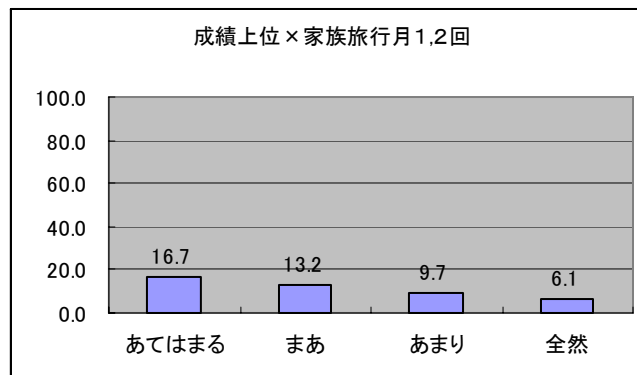
※コメント=吉村理子(学研教育総研・研究員)

●家族旅行と成績

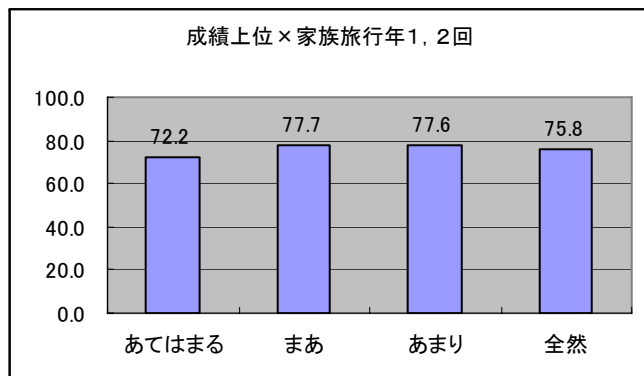
・ ほぼ毎週のグループ



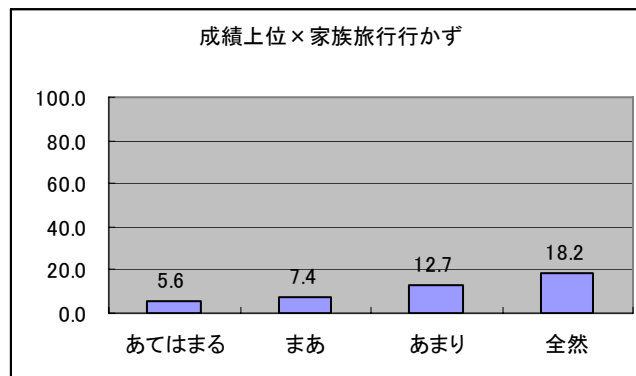
・ 月に1、2回のグループ



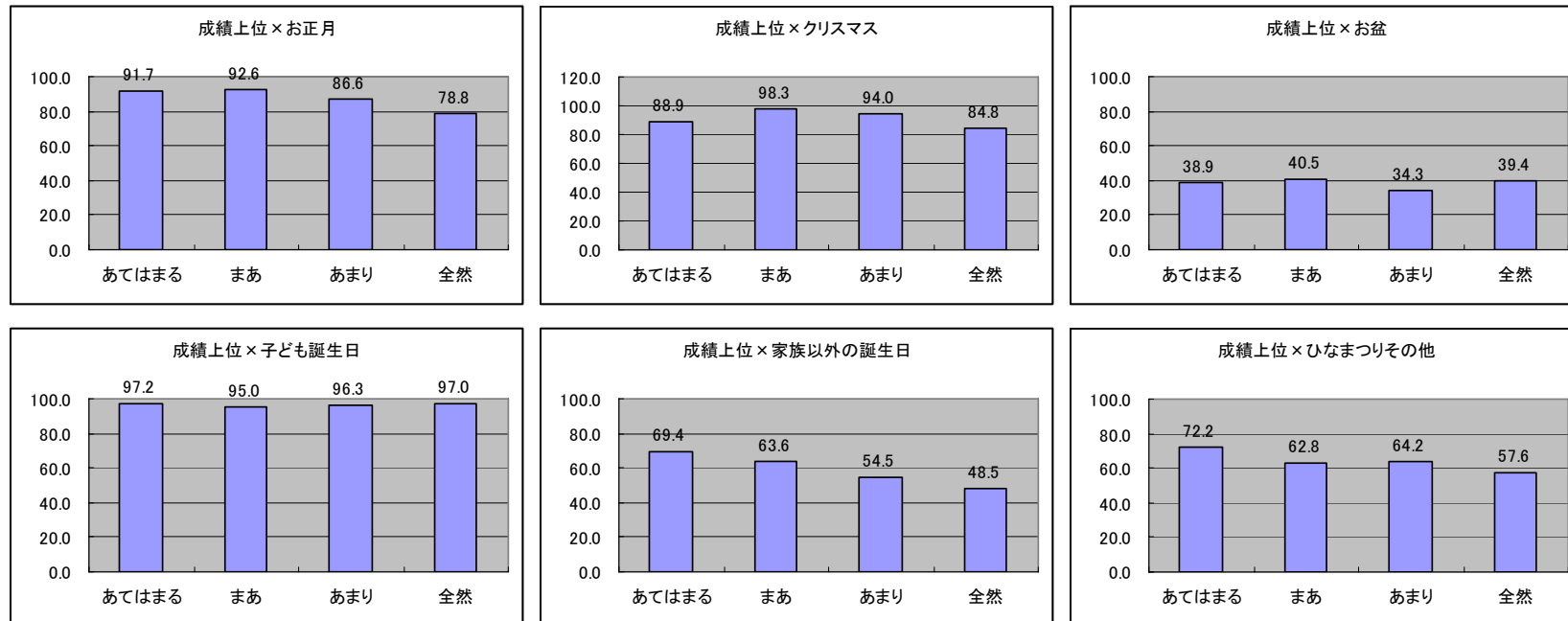
・ 年に1、2回のグループ



・ ほとんど行かないグループ



●必ず行なう年中行事と成績



「家族旅行」の頻度と「子どもの成績」は、「ほぼ毎週」「月に1回」という家庭の子どもが、成績が上位という傾向に対し、「ほとんど行かない」と回答した家庭の子どもの成績はよくないという、相関関係がうかがえる。しかし、成績上位の子どもたちの家庭での各年中行事を抽出するも、とくに目立った関係は確認できなかった。ただし、「子ども以外の誕生日」を祝うという項目で、子どもの成績との比例関係が認められる。

以上より、正月やクリスマスなどの社会一般的な行事よりも、家族旅行に頻繁にでかける、子ども以外の家族の誕生日祝うなど、その家庭ならではの行事を行っている、より密な家族関係の家庭の子どもの成績が、上位傾向にあるともいえる。

テーマ分析・5 子どもと何を話す？ 何を教えている？

クロス集計の方法と分析について

父親と子どもとで交わされる会話の話題、父親が子どもに教えたこと（特に勉強以外）、父親が子どもに関して知っていることなどと、子どものタイプ、特に学力との関係を見るために集計した。具体的には、

Q4 「あなたのお子さんは、あなたから見てどんな子どもですか」

を、次の3つの質問項目とクロスさせて集計した。

Q9 「話題にすることが多いのはどんな話ですか」（複数回答、5つまで）

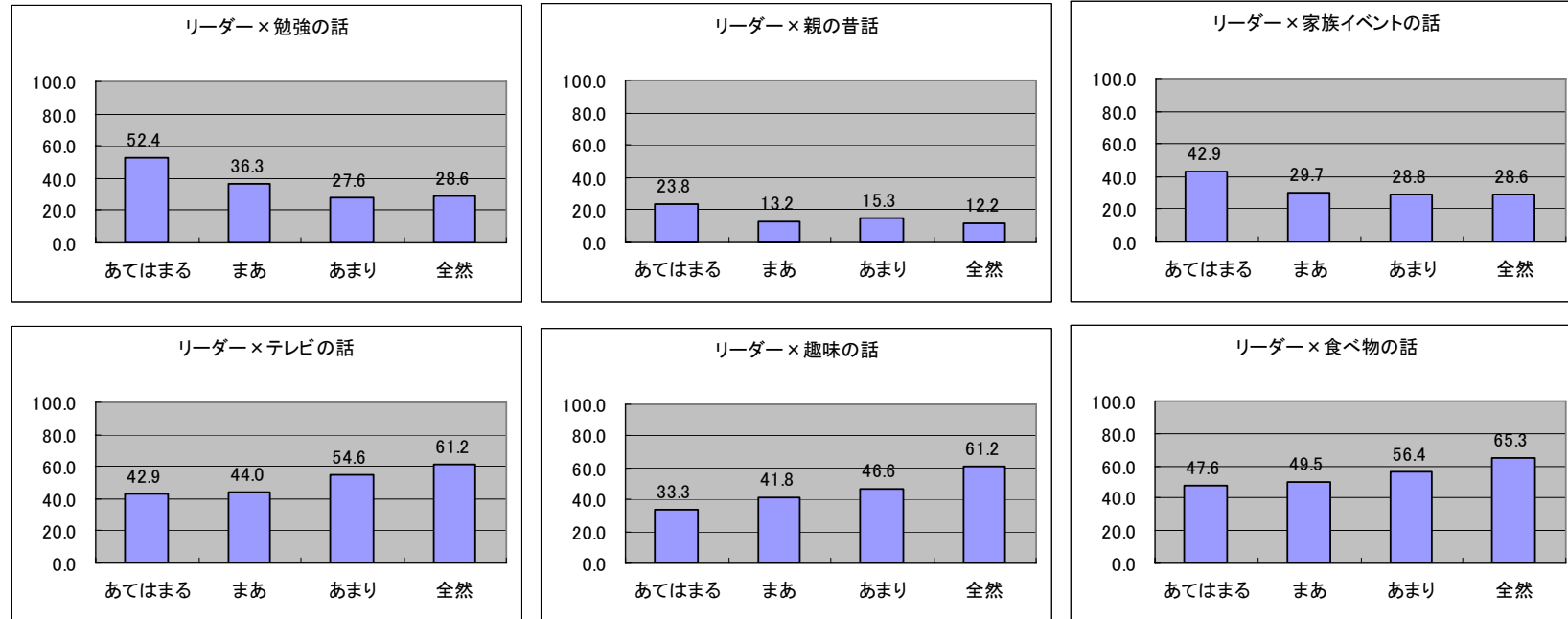
Q10 「次のうち、お子さんに教えたことのあるものはどれですか」（複数回答）

Q11 「次のうち、お子さんに関することで知っているものはどれですか」（複数回答）

● 学力などとの相関関係が明確と思われる項目のみ抽出し、分析を加えた。

※コメント＝山本尚幸（学研教育総研・研究員）

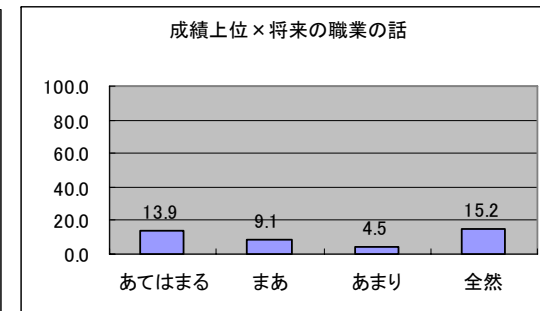
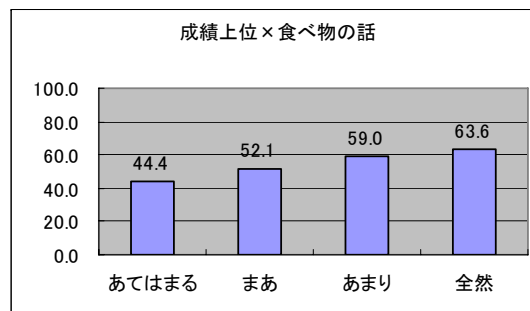
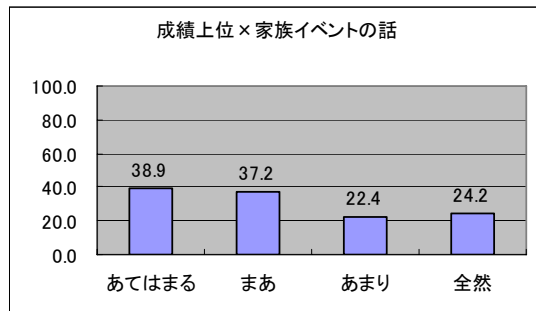
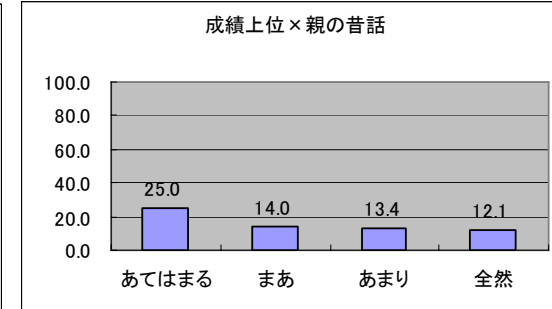
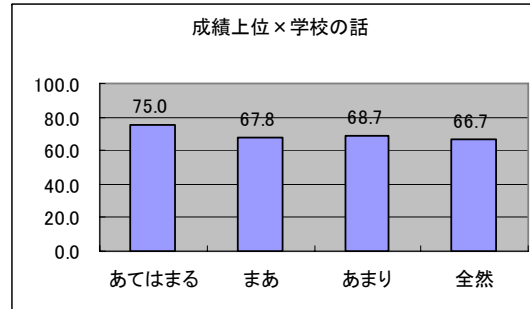
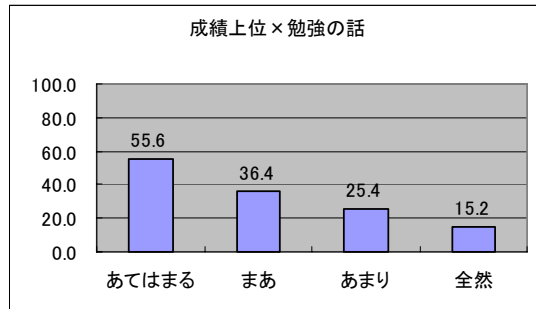
● 「リーダータイプの子ども」 父親との話題は？



※ 「あてはまる～全然」は、親から見て子どもが〇〇タイプであるかどうかを評価したもの。以下同様。

よく話す話題として「勉強の話」「父親の昔話」「旅行など家族イベントの話」を選んだ家庭では、リーダータイプに「あてはまる」数値が高い比例傾向にあり、逆に「テレビ」「趣味」「食べ物」などでは反比例傾向が見られる。前者がかなり突っ込んだ内容のコミュニケーションであるのに対し、後者はどちらかという当たりさわりのない話題といえる。親子で話す内容・密度と、子どもの心や性質との関連性が伺える。

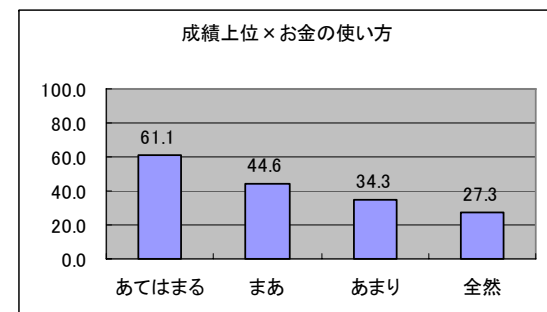
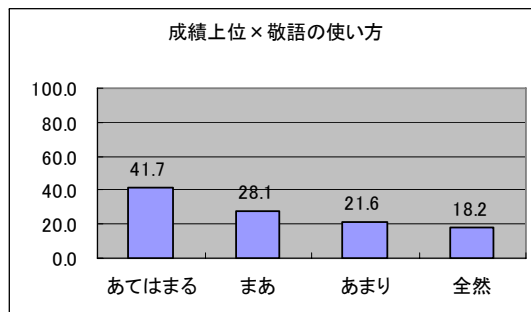
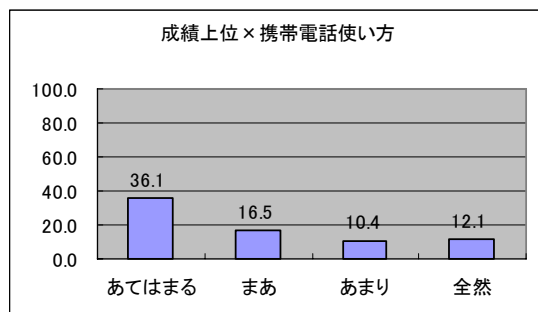
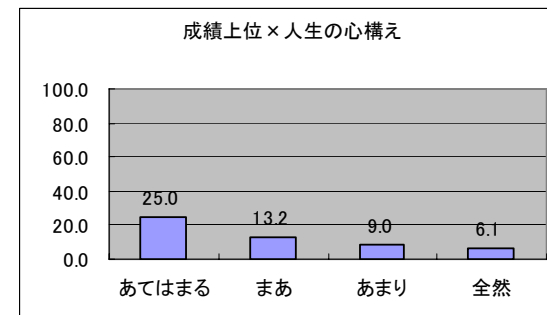
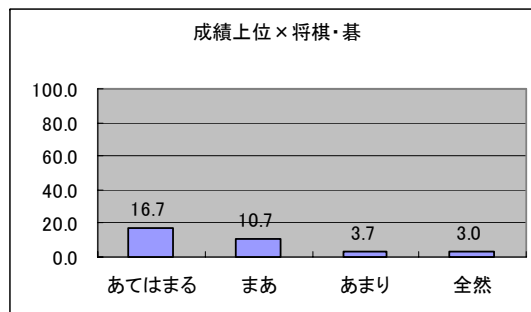
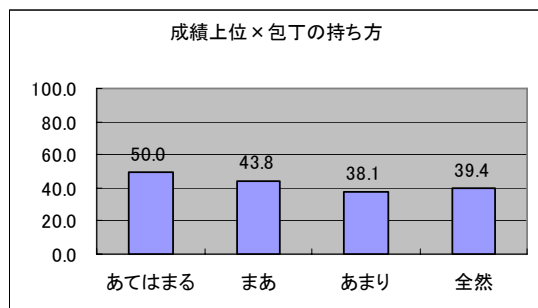
● 「成績上位の子ども」父親との話題は？

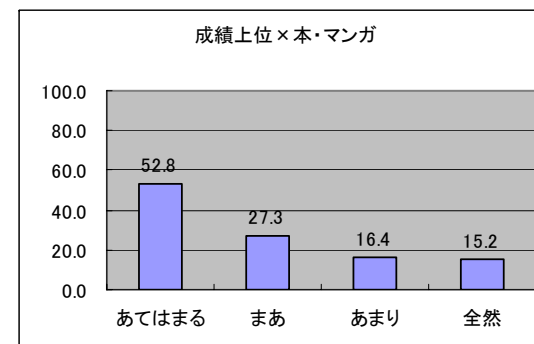
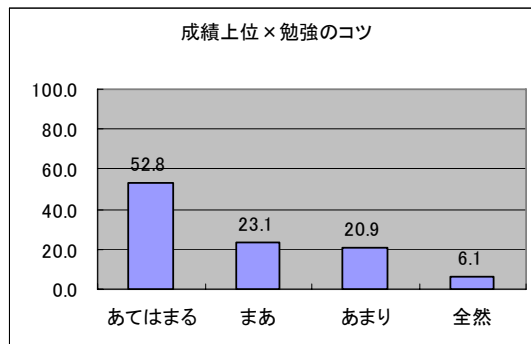
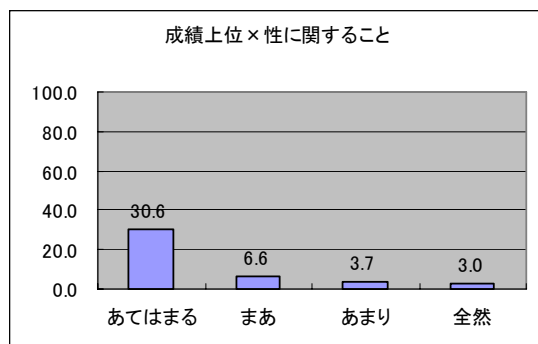
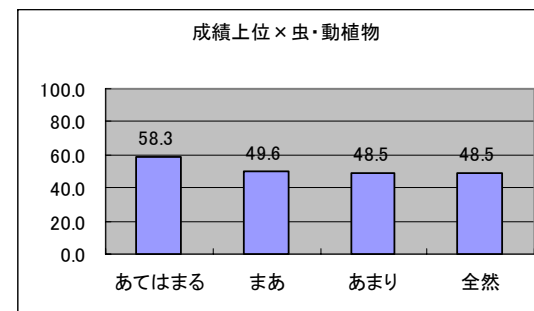
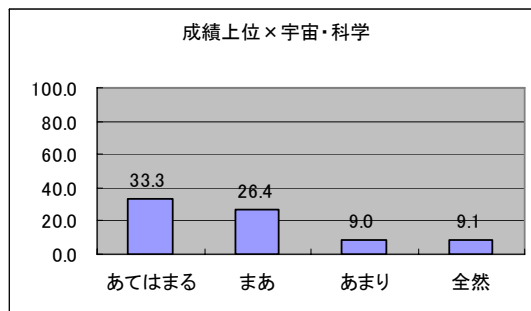
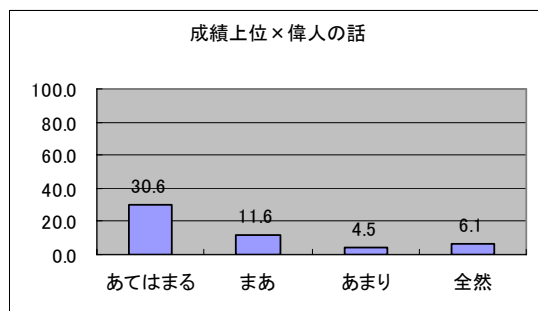
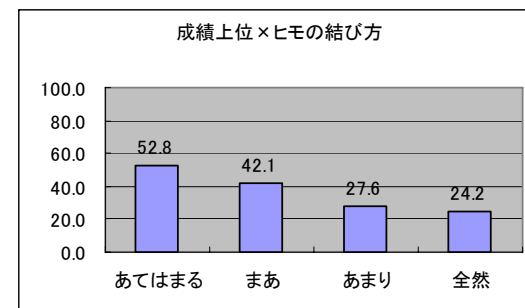
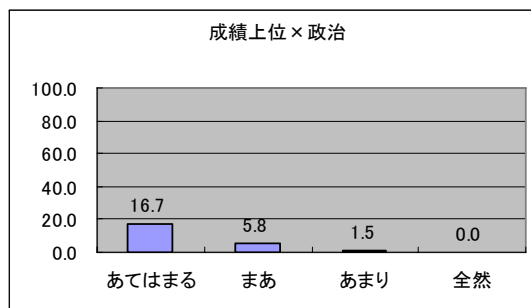
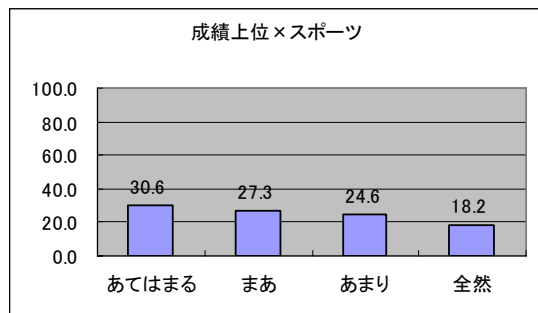


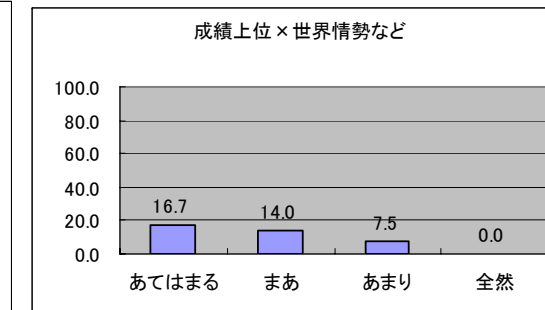
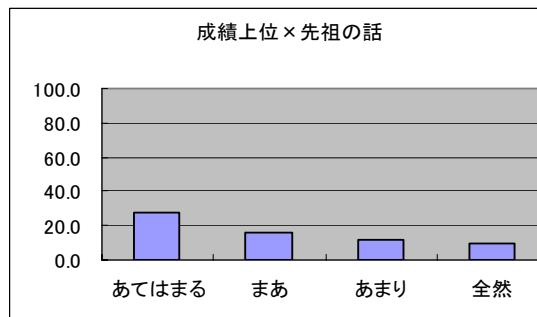
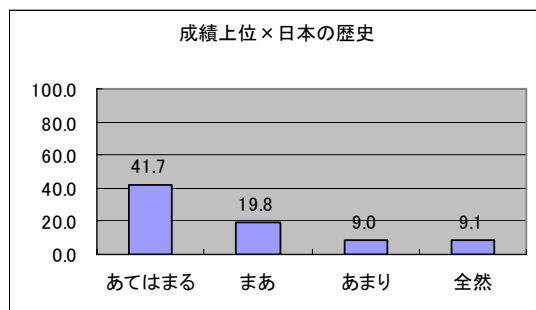
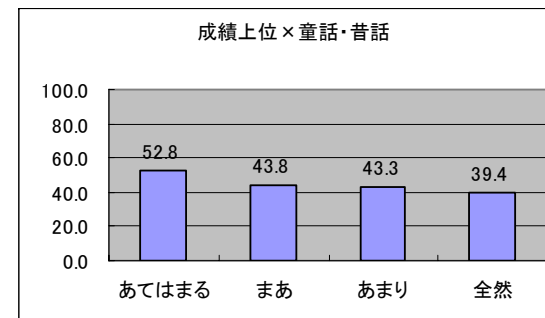
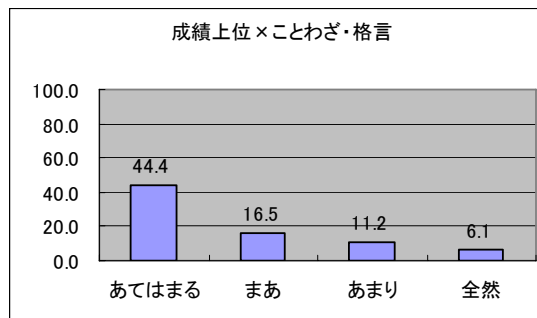
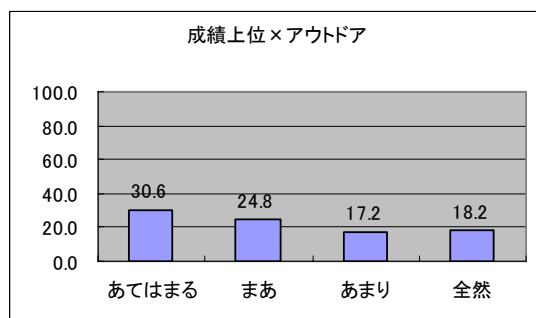
勉強の成績に関しても、話題の内容による比例／反比例の傾向は、前頁の「リーダータイプ」とほぼ重なっている。

「将来の職業」を多く話題とする家庭は、成績の中間層で少ない二極傾向が見られる。しかしそもそもの絶対数が少なく、親子で職業に関して話す機会が少ないという実態が見て取れる。

● 「成績上位の子ども」 父親は何を教えた？

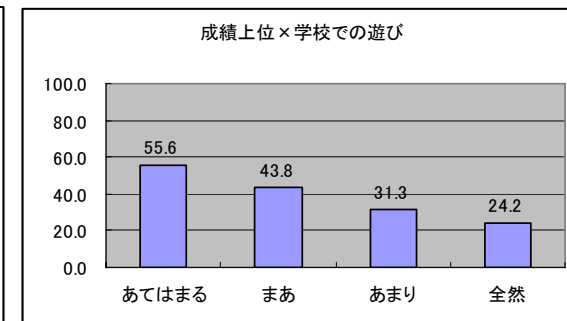
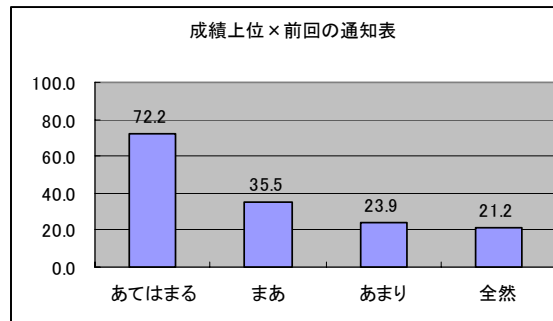
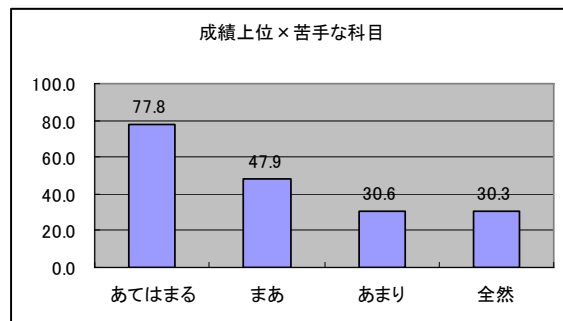
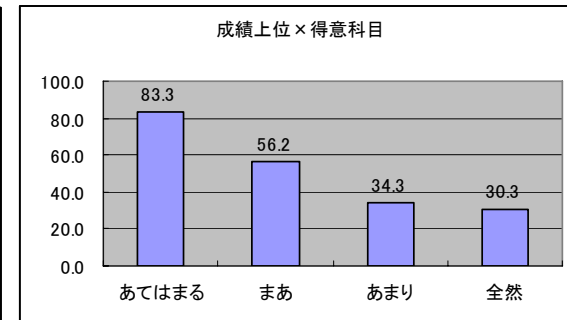
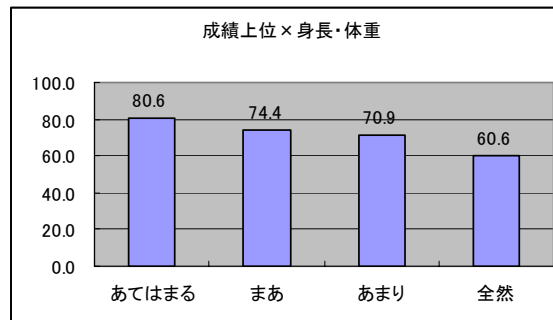
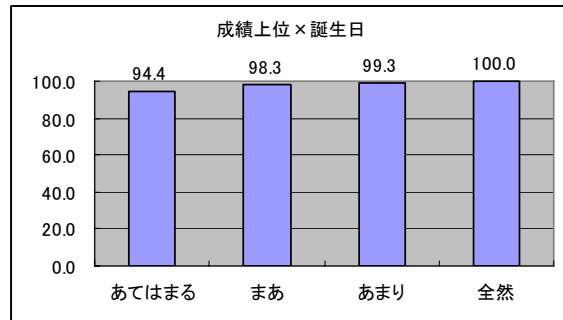


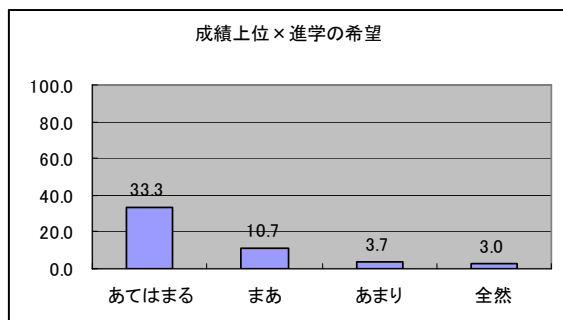
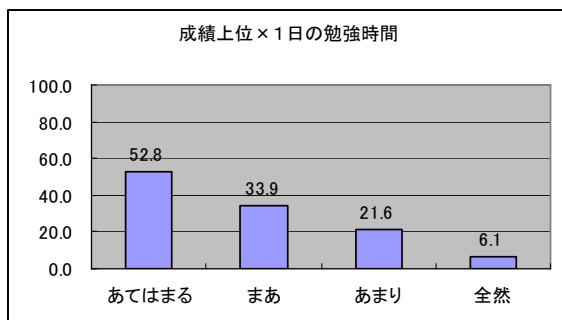
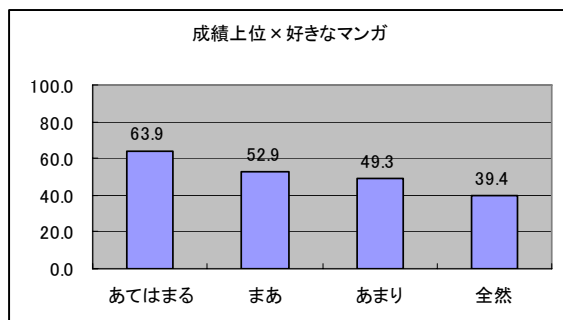
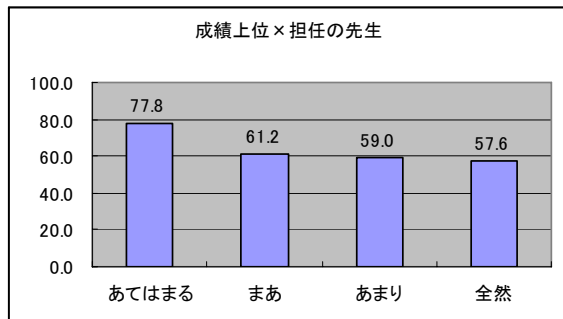
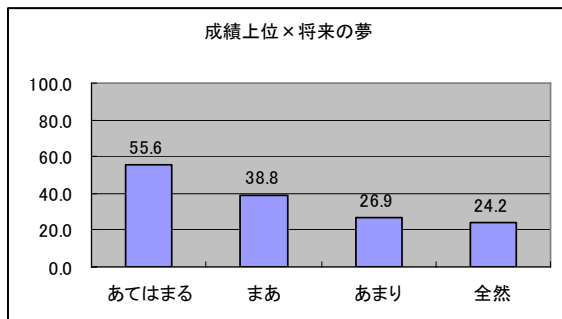
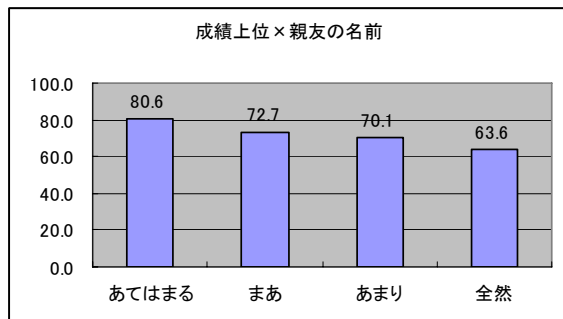
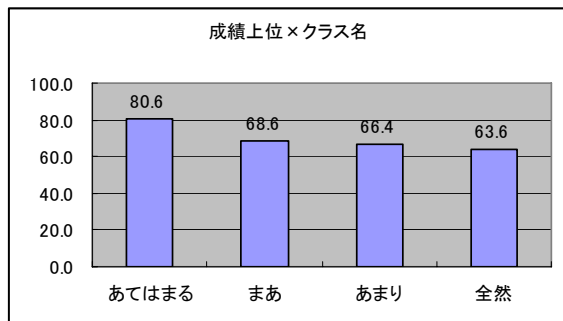
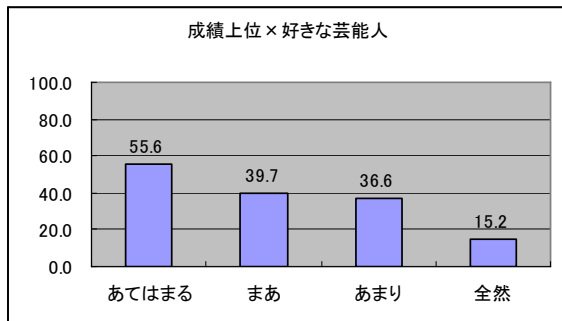
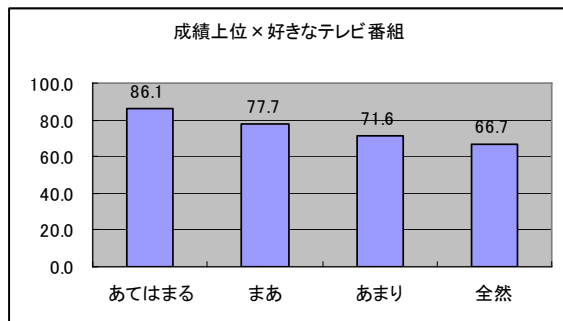


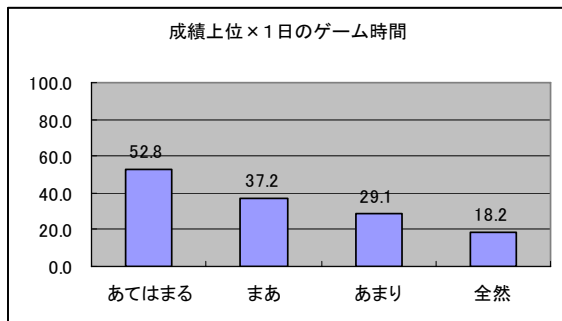
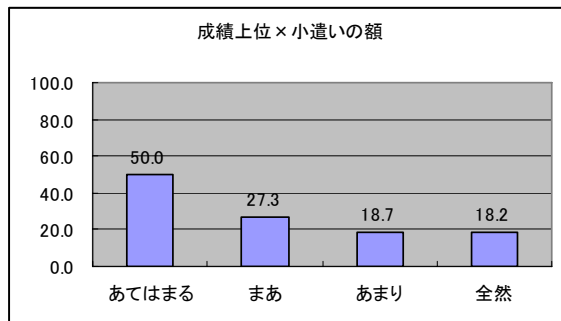


全部で30項目を挙げたが、そのうちの21項目で成績との比例傾向が見られた。「勉強のコツ」や科学・歴史の知識といった学習に直結するような内容だけでなく、「ヒモの結び方」「お金の使い方」「アウトドア」「先祖の話」など、日常の常識や生きる知恵が多く含まれていることが注目される。直接的な勉強以外のことも含めて、父親がどれだけのことを子どもに教えているかが、子どもの成績とリンクしているといえる。

● 「成績上位の子ども」父親は子どものことをどれだけ知っている？







通知表の内容や得意科目、一日の勉強時間など、成績や学習に関して知っているという場合に、成績上位に「あてはまる」数値が高いのは、当然といえば当然の結果と見える。しかし、学校での遊びや好きな芸能人、小遣いの額など、直接学業に関係しないことであっても、「知っている」父親の子どもが成績上位傾向にある点は興味深い。

父親が、子どもの生活全般にどれだけコミットしているかが、子どもの成績と関わりあっている可能性が見て取れる。

まとめと今後の課題

ほぼ毎日子どもと一緒に食事をする父親が70パーセントを超え、子どもの勉強を見るのも「ほぼ毎日」が35.2パーセントに及ぶなど、想像以上に現代の父親と子どもとのふれ合いは緊密になっている。そして、アンケート結果を総じて見ると、父親と子どもとのコミュニケーションの質・量が、子どもの発育に影響を与えていることは明らかである。

特に、学科・学習と直接関わりのないふれ合いが、成績上位の子どもの家庭で多い点は注目されるべきであろう。父親が遊びを含めたコミュニケーションの中で、社会と関わってゆくすべてを子どもに身につけさせているという構図が浮かぶが、そのことが勉強の成績とも連関しているというのは、興味深い。

しかし、ただ父子のふれ合いを増やすことが必ずしもすべて好結果につながると言い切れるものではなく、今後より精密な調査が必要とされるであろう。また父親と母親とで、コミュニケーションの影響の仕方がどのように違ってくるのかも、今後の研究課題といえる。(山本記)

父親と家庭教育に関する調査

発行／2007年5月11日

発行所／株式会社 学習研究社

〒145-8502 東京都大田区上池台4-40-5

発行・編集人／ 安威誠

copyright GAKKEN. CO., LTD

本書の無断転載、複製、複写（コピー）、翻訳を禁じます。

この調査のお問い合わせは、

(株)学習研究社・教育総合研究所

文書は：〒145-8502 東京都大田区上池台4-40-5

電話は：03-3726-8356